

# 2020年度 全国専務理事連絡会（Web会議）

2021年3月21日（日） 13:00～15:00

2021年3月21日（日） 13:00～15:00

内容	目安時間
1. 事務総長挨拶およびJBA活動報告 ・FIBAモニタリング ・JBS2020（案）について	30分
2. 実態調査の中間報告	20分
3. 2023W杯について	10分
4. JBAガバナンスコード	10分
休憩	5分
5. 暴排窓口設置方針	10分
6. 2021年度D-fund対応について	10分
7. その他 ・ブロック協会への委託事業について ・2021年度会議予定 ・質疑応答、意見交換等	25分

# FIBAモニタリングについて

- 開催日

2021年2月4日(木)17時～19時30分

- 会場

ZOOM会議

- 参加者

FIBA：インゴ・ワイス氏、スコット・ダーウィン氏

JBA：三屋会長、浜武事務総長

WJBL：西井専務理事

BLG：島田代表理事CEO、古川代表理事COO

事務局：JBA中村GM、JBA川島M、BLG斎藤MJBA

# Japan Basketball Association モニタリング資料

2021年2月4日

- <1> 日本バスケットボール協会（JBA）活動報告**
  - 1-1 JBAの新体制報告**
  - 1-2 新型コロナウイルス感染症による影響  
競技会の状況（JBA主催大会）  
登録者の状況（競技者・指導者・審判）**
  - 1-3 ユース活動**
  - 1-4 代表強化計画**
  - 1-5 JAPAN BASKETBALL STANDARD 2020（JBS）**
  - 1-6 FIBA Basketball World Cup 2023**
  
- <2> バスケットボール女子日本リーグ（WJBL）活動報告**
  
- <3> B.LEAGUE 活動報告**

## JBA officer ( From July 2020 to September 2021 )

### 【Director】

1	President	Yuko Mitsuya	留	FIBA Central Board Member
2	Vice-president	Hiroto Kadokawa	新	Aichi Basketball Association managing Director 日本社会人バスケットボール連盟 専務理事
3	Vice-president	Toshiharu Nishii	留	WJBL Vice Chairman and Managing Director
4	Vice-president	Sinji Shimada	留	B.LEAGUE chairman
5	PBA	Nobutoshi Higoshi	留	Okinawa Basketball Association managing Director
6	PBA	Takeo Ono	留	Chiba Basketball Association managing director
7	PBA	Yuji Yoshida	新	Kyoto Basketball Association managing Director
8	PBA	Osamu Fujiwara	留	Iwate Basketball Association managing Director
9	B.LEAGUE	Koidhiro Furukawa	新	B.LEAGUE COO
10	Basketball profession	Minako Takeushi	新	車いすバスケットボール連盟 理事
11	Basketball profession	Hiroaki Tsuru	新	(株)B.MARKETING、取締役会長、B.LEAGUE 特任理事
12	Basketball profession	Shiho Moriya	留	Professor, Faculty of Media Communication, Edogawa University
13	External expert	Tetsu Ozaki	新	野村アセットマネジメント(株) 取締役会長
14	External expert	Toshikazu Tanaka	新	住友不動産(株) 常勤監査役
15	External expert	Masaki Sakaida	留	Lawyer, Director of the University of Tokyo
16	External expert	Shiho Takano	新	(株)エトワ代表取締役社長

### 【Auditor】

1	External expert	Makiko Nakamori	留	Certified accountant / tax accountant
2	External expert	Shino Hirose	新	lawyer

Secretary-General : Yasuo Hamatake

# 1-2 INFLUENCES OF COVID-19 Competitions

## Main Competitions (JBA organising 2020/8~2021/3)

SCHEDULE	COMPETITION	CATEGORY	GENDER	CITY	Result
<b>2020</b>					
8/12-8/18	Inter-High School Championship	U18	male/female	ISHIKAWA	<b>anceled</b>
8/21-8/24	Jr.High School Championship	U15	male/female	MIE	<b>anceled</b>
9/19-10/18	3x3 Japan Tour 2020		male/female	nationwide	finished
10/8-10/12	JAPAN GAMES "Basketball"	U16&OPEN	male/female	KAGOSHIMA	<b>anceled</b>
11/28-12/16	Emperor's Cup 1 <sup>st</sup> ~ 2 <sup>nd</sup> Round		male	TOKYO & other cities	finished
11/28-12/20	Empress's Cup 1st~ Final Round		female	TOKYO & other cities	finished
11/28-11/29	3x3 U18 Championship	U18	male/female	TOKYO	finished
12/7-12/13	Intercollege Championship	UNIVERSITY	male/female	TOKYO	finished
12/23-12/29	"Winter Cup" High School Championship	U18	male/female	TOKYO	finished * 7 teams declined
<b>9/18-2021/3/22</b>	<b>WJBL</b>		<b>female</b>	<b>nationwide</b>	<b>in session</b>
<b>10/2-2021/5/2</b>	<b>B.LEAGUE</b>		<b>male</b>	<b>nationwide</b>	<b>in session</b>
<b>2021</b>					
1/4-1/7	"Junior Winter Cup"	U15	male/female	TOKYO	finished * 7 teams declined
1/13	Emperor's Cup 3 <sup>rd</sup> Round		male	TOKYO, other 3 cities	finished
1/16-1/17	B.LEAGUE ALLSTAR GAMES		male	IBARAKI	<b>anceled</b>
3/12-13	Emperor's Cup Semi final / Final		male	SAITAMA	to be held
2/27-2/28	3x3 Japan Championship		male/female	TOKYO	postponed to 3/20-3/21
3/28-3/31	All Japan Mini Basketball Games	U12	male/female	TOKYO	TBD



## チーム加盟数・競技者登録数推移（2017年度～2020年度）

	2017	2018	2019	2020	
<b>Team</b>	<b>U12</b>	8,698	8,776	8,726	8,165
	<b>U15</b>	12,992	13,293	13,116	12,370
	<b>U18</b>	8,151	8,071	7,947	7,596
	<b>一般</b>	4,228	4,287	4,250	2,961
	<b>Total</b>	<b>34,069</b>	<b>34,427</b>	<b>34,039</b>	<b>31,092</b>

- 2020年度はコロナの影響で多くの活動、大会ができない状況となり、登録人数が大幅に減少

	2017	2018	2019	2020	
<b>Players</b>	<b>U12</b>	155,003	155,085	153,143	133,186
	<b>U15</b>	253,900	247,289	234,459	185,249
	<b>U18</b>	157,778	152,169	143,729	127,651
	<b>一般</b>	66,202	67,963	66,044	44,672
	<b>Total</b>	<b>632,883</b>	<b>622,506</b>	<b>597,375</b>	<b>490,758</b>

	2017	2018	2019	2020
<b>3x3</b>	896	868	1,228	601

## コーチ登録数推移（2015年度～2020年度）

license	2015	2016	2017	2018	2019	2020
S	-	27	46	72	105	104
A	129	126	142	211	221	215
B	546	626	661	692	945	970
C	6,637	7,424	8,087	9,235	11,684	11,601
D	8,712	9,927	10,579	10,507	10,355	10,054
E					8,626	13,489
E-1	6,903	9,073	11,005	13,365	12,890	12,644
E-2	9,010	11,837	14,285	15,986	15,799	15,672
<b>total</b>	<b>31,937</b>	<b>39,040</b>	<b>44,805</b>	<b>50,068</b>	<b>60,625</b>	<b>64,749</b>
<b>YoY (%)</b>		<b>122%</b>	<b>115%</b>	<b>112%</b>	<b>121%</b>	<b>107%</b>

- 2020年度はコロナの影響で多くの講習会が中止または延期
- E級についてはeラーニングにて取得できるため、約5,000人が新規取得
- D級、C級については、オンラインでも受講できるコースを新たに開発

## 審判員数推移および審判インストラクター数推移(2020年度は12月末時点)

### 【審判員登録人数推移 (FIBAライセンスはS級ライセンス人数に含まれる)】

審判ライセンス	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
FIBA	13	13	13	<b>13</b>
S級(全国)	102	123	138	<b>153</b>
A級(ブロック)	273	263	276	<b>297</b>
B~E級(都道府県)	44,667	49,820	54,042	<b>52,679</b>
合計	45,042	50,206	54,456	<b>53,142</b>
前年度比	613%	111%	108%	<b>97.6%</b>

- 2016年に審判ライセンスの全国統一化を実施した。2017年度の前年比較は2015年度比較として算出したが、613%の審判員数増加。その後も順調に増加中
- 2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で初めて前年度比マイナスとなる見込みである
- 上級ライセンスのS級審判員は180~200名、A級審判員は300~350名を目標に育成強化

### 【審判インストラクター人数推移】

インストラクターライセンス	2019年度	2020年度
T級(トップリーグ)	29	<b>25</b>
1級(全国)	80	<b>79</b>
2級(ブロック)	336	<b>320</b>
3級(都道府県)	2,471	<b>2,758</b>
合計	2,916	<b>3,182</b>
前年度比		<b>109%</b>

- 2019年度からインストラクター制度を実施。
- 上級審判員 (S級・A級) で上級審判インストラクターライセンス (1級・2級) 取得者比率は非常に高く90%である。
- 3級インストラクターは、B級取得者の約50%が取得。

## 1. 第1回U15 Championship 実施

- ・部活動、クラブチーム、BユースU15が出場し、男女ベスト4に部活、クラブ、BユースU15が入った。
- ・中学3年生の活動期間延長および各チームの切磋琢磨する環境ができ、強化育成パスウェイの一つが加わった。
- ・以前と比較し、U15世代の個の技術の成長、戦術の進化が見られた。

## 2. U18 Top/Block League 創設

- ・U18世代でのリーグ戦文化を3階層（都道府県・ブロック・トップ）とし、世界の競技力へ近づけるパスウェイとなる。
- ・ブロック：2021～2023年段階を経て2024年に完全実施を目指す。
- ・トップ：2022年プレを経て2023年実施を目指す。

### Vision



### Goal

Challenge to world

USA・NCAA  
BLG/WJBL・EURO・AUS  
UNIVERSITY

U18 Top/Block League  
Excellence GAME / PLAYTIME  
CLUB+SCHOOL+BLGU18

U15 Championship  
CLUB+SCHOOL+BLGU15



### Keyword

日常を世界基準に

一気通貫



U12 : ENJOY U15 : INDIVIDUAL



← BASKETBALL FAMILY →

# 1-4 代表強化計画 5人制 男子代表チーム -FIBAランキング41位-

- ① 新型コロナウイルス感染症の拡大により、2020年内に予定していた日本代表活動に関わる多くの国際大会・海外遠征・国内強化合宿が延期・中止となり、継続的な強化活動が行えず貴重な国際試合の経験を得る機会を失ってしまった。
- ② ユース時代からの一貫した継続的な指導を行う「一気通貫プロジェクト」は、A代表コーチがアンダーカテゴリー代表のヘッドコーチを兼務することで、中長期的な視点で選手育成・強化体制の構築が図られつつある。
- ③ 引き続き各年代における代表チームの海外遠征や国際強化試合の機会創出を図り、特にU22/U20世代を対象に高いフィジカルレベルの習得と、コンタクトスキルの向上を目的にスキルデベロップメントの経験値を上げる具体的な施策に着手する。
- ④ FIBAのウィンドウのスケジュールに合わせて代表強化合宿のプランニングは行っているが、依然国内のB.LEAGUEや天皇杯等との日程重複問題は存在するため、リーグやクラブと連携を図りFIBA公式戦前の安定した強化活動日数の確保を目指す。



Gavin Edwards



Rui Hachimura



Yuta Watanabe



Yudai Baba

# 1-4 代表強化計画 5人制 女子代表チーム -FIBAランキング10位-

- ① 世界的な新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、海外チームとの対戦機会や持続的な代表強化活動ができず、加えて感染症により強化活動期間や練習環境への影響も及んだためか、主力代表選手含めWリーグ内でも怪我人が多く発生した。
- ② インサイドの攻防で押し負けないフィジカル面の強さを磨くと共に、よりスカウティングや技術・戦術の分析を行い、大型選手の強化やユーティリティプレイヤーの養成、また日本人パスポート保持者の発掘活動や帰化選手の獲得を推進していく。
- ③ U17ワールドカップ、U18アジアカップが中止となったが、Japan's Wayといわれるスタイルの継承を推進すべく、海外チームとの国際強化試合の機会を創出し、A代表×アンダーカテゴリー代表と連携・連動した代表強化プログラムを遂行していく。
- ④ Wリーグや所属クラブの協力によって安定した強化活動の日数は確保できているが、更なる強化のためにWリーグへの外国籍選手登用や、クラブ間の戦力均衡化に向けたリーグ構造改革により、代表活動期間以外でもレベルアップを図る。



Evelyn Mawuli



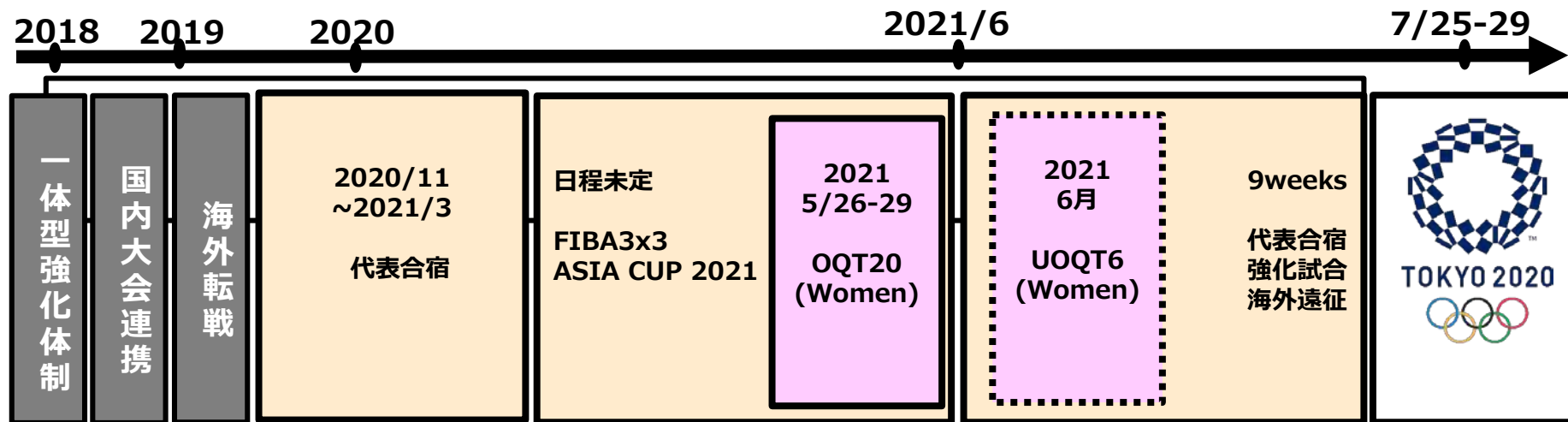
Fourth straight Women's Asia Cup title



Yuki Miyazawa

# 1-4 代表強化計画 3x3代表 -FIBAランキング 男子12位 / 女子4位-

- ① 3x3代表は女子代表が東京オリンピックの出場権を獲得することを最重要課題として、2021年5月の3x3OQT突破に向けた強化を行う。Wリーグ等と連携してベストチームを編成し、対戦チームを想定した強化活動を実施していく。
- ② 男女代表ともに東京オリンピックに向けた「世界で戦えるチーム」を目指し、「一体型強化体制」の中で、BリーグやWリーグ等を含めた「国内大会と連携」を図り、4月以降はワールドツアーやウーマンズシリーズなどの「海外転戦」を行う。
- ③ 2019年までの国際大会での経験を踏まえて、帰化選手を含めた選手選考および強化活動を継続的に行い「日本スタイルの熟練」を目指す。また2024年、2028年のオリンピックを見据えて、アンダーカテゴリーからの底上げも継続していく。



Mio Shinozaki



Stephanie Mawuli



Tomoya Ochiai



Daisuke Kobayashi

創りたい未来を示すキーワードは4つ。全ての仕事はこの4つに通じる  
創りたい未来を実現するために達成すべき8つの2030Basketball Goal

## *SMILE*

最も笑顔を生み出すスポーツNo.1となり、  
バスケットを通じて生まれた笑顔が日本に活力  
を与える世界

- 「する」「好きな」スポーツNo.1
- 「観る(来場・視聴)」スポーツとしての各カテゴリーで  
ベスト3

## *Star*

世界に通じる魅力を有するスター選手を10  
人以上出し続け、日本中が世界へのチャレ  
ンジにワクワクする世界

- 北米で活躍するレベルの選手 10名以上(男女それぞれ)
- オリンピック連続出場・決勝トーナメントでの躍進

## *Dream*

世界に誇る「バスケットで魅了する  
夢の都市」が47都道府県に存在し  
人々・文化・経済が活性化された世界

- 2029年男子アジアカップ・2030年女子World Cup招致  
(その先に男子World Cup招致)
- 夢のアリーナの整備  
(ナショナルアリーナ & 15カ所のエリアアリーナ)

## *Team*

個を信じ、リスペクトしあい・チームの価値を  
追求し、高め合う「イノベーション集団」

- バスケット事業規模 600億円(プラス成長維持)
- 働きたいスポーツ界 No.1



## The Japan Organizing Committee for the FIBA Basketball World Cup 2023

【 Date of establishment 】 November 26, 2020

【 Officer at the time of establishment 】

Representative Director Yuko Mitsuya ( JBA President )

Director Nobutoshi Higoshi

( JBA Director 、 Okinawa Basketball Association managing Director )

Director Hiroaki Tsuru ( JBA Director )

Auditor Isao Sunaga ( Tax accountant, former JBA auditor )

Councilor Shinji Shimada ( JBA Vice Chairman, B League Chairman )

Councilor Masaki Sakaida ( JBA Director )

Councilor Yasuo Hamatake ( JBA Secretary-General )

【 JMC of Japan 】 FIBA: David Crocker / Patrice Dubuis / Andreas Biffiger

JBA : Teruhisa Nakamura / Kenta Kasahara / Hiroko Sasanuma



Construction of the Okinawa Arena is progressing steadily, scheduled to be completed this spring



# トップリーグの状況（Wリーグの状況①）

## 1. 2019-2020 トピックス ①

### （1）コロナの影響でWリーグを途中で中止

2021/2/29 から開始を予定していたプレーオフをすべて中止した。

#### ① 試合数の減少

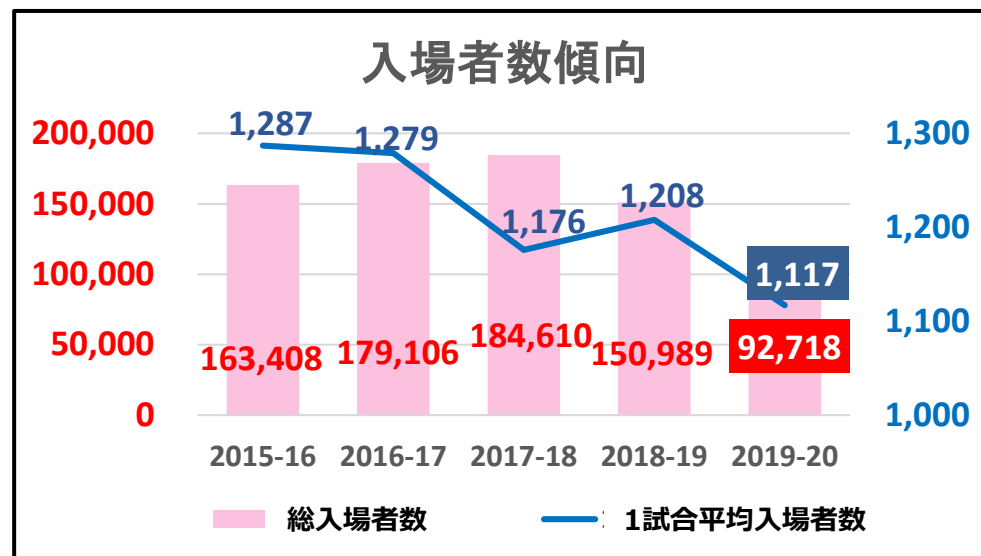
中止試合 **55** 試合

総試合数 **96** 試合（前年比 67.1%）

#### ② 入場者数の減少

総入場者 **92,718** 人（前年比 61.4%）

平均入場者 **1,117** 人（前年比 92.4%）



#### ③ 収益の減少

最大の収入源であるプレーオフを中止したことにより収益も減少

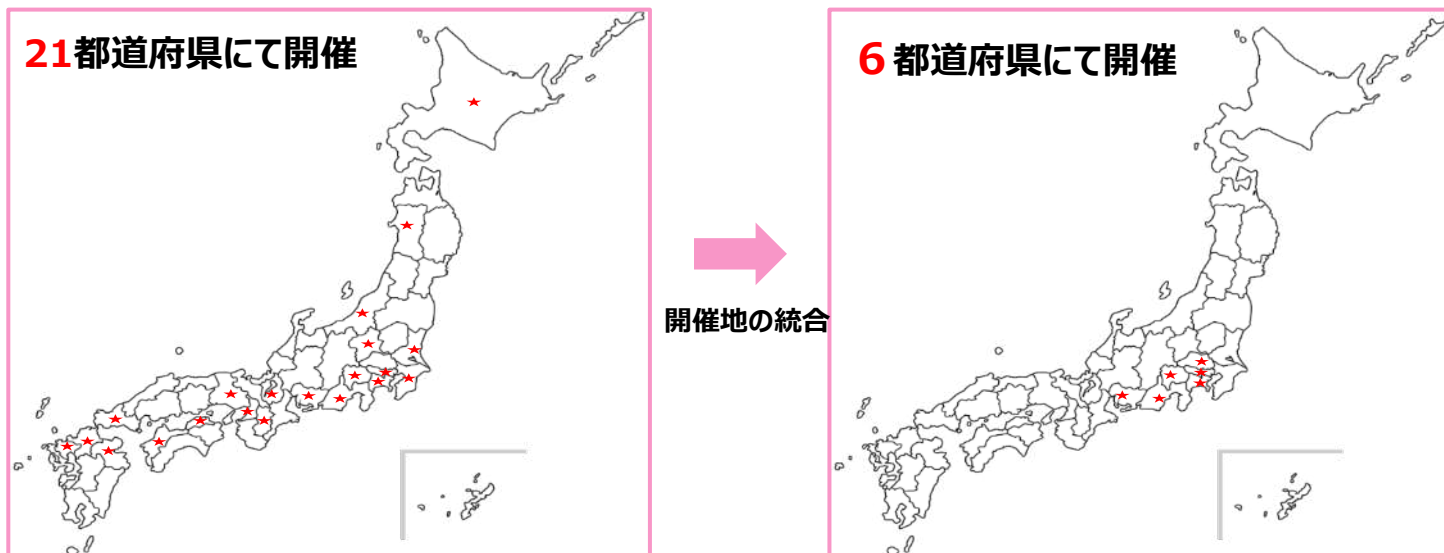
US\$

	2015-16	2016-17	2017-18	2018-19	2019-20
収入	1,452,714	1,460,482	2,120,125	2,185,608	1,913,369
営業収益	1,250,893	1,159,027	1,495,777	1,572,220	1,302,847
支出	1,299,911	1,382,509	1,955,661	1,890,315	1,866,565
営業経費	571,848	470,563	1,162,429	1,306,766	1,281,097
正味財産	134,571	17,152	164,464	293,899	-19,375

# B トップリーグの状況 (Wリーグの状況②)

## 2. 2020-2021 トピックス ②

(1) コロナウイルスの拡大により、当初予定していた全国各地での試合開催を変更した。



2020-21SEASON W LEAGUE

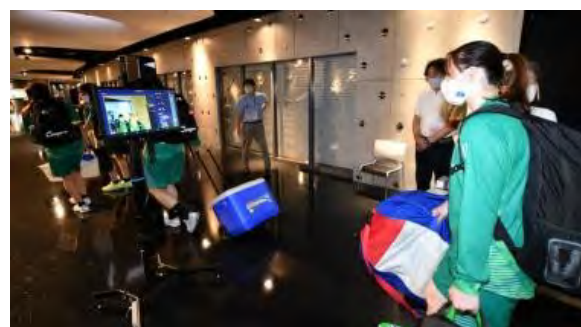
### ① レギュレーションの大幅な変更

- ・東西カンファレンス制を採用
- ・同一カンファレンス内でのリーグ戦
- ・東西各チーム拠点近郊でのセントラル開催
- ・集中的なコロナ感染予防対策の実施

3試合/日の集中開催

## ② Wリーグにおける感染対策

- ・リーグ主導でのPCR検査（1シーズン6回）の実施  
選手・コーチ他ベンチ入りメンバー及び審判員・リーグスタッフ
- ・アプリ『アトレタ』を用いた「健康管理日報」の共通利用
- ・運営ガイドラインの作成  
感染時、試合不成立時における対応を明文化
- ・運営ガイドラインの作成  
感染時、試合不成立時における対応を明文化
- ・国内のガイドラインに従い観客数50%、5,000人以下 チケット販売枚数の制限
- ・声を出しての応援行為の禁止及びファンサービスの自粛
- ・総合病院との連携



## B トップリーグの状況（Wリーグの状況④）

### ③ チームとの連携

- ・コロナの脅威に対応すべく、キャプテン、マネージャーとWeb会議を通し、不安解消や対応策実施等の共有を図る。

### ④ チームでの感染

- ・残念ながら3チームのスタッフ、選手にコロナウイルス感染者が出ましたが、いずれも症状は軽く、現時点で全員の陰性が確認できている。
- また、チーム内での完全隔離により外部への感染は無かった。

アイシンAW 2人、日立ハイテク 17名、富士通 2人



### ⑤ 経営の圧迫

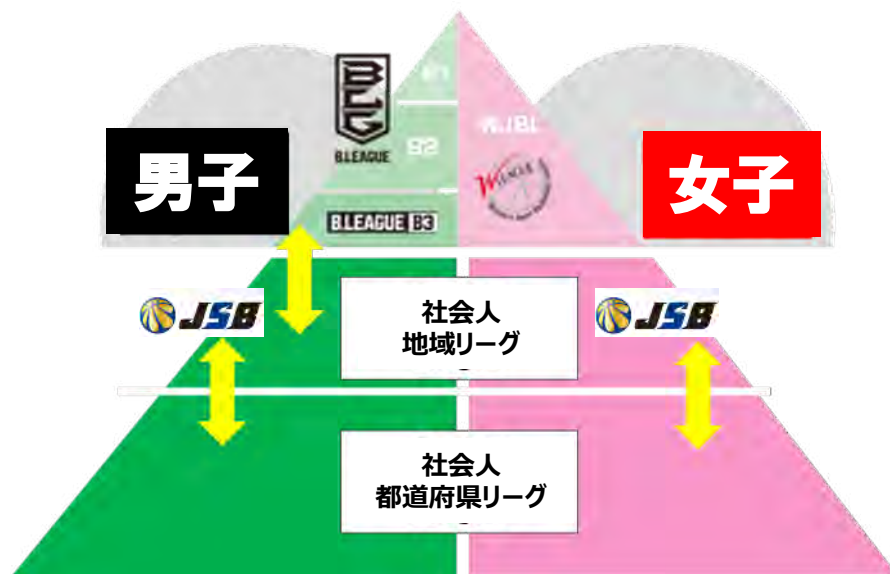
- ・地方開催を中止したためP B Aからの興行権収入は 0
- ・全試合をW J B Lが主管開催したため、開催コストが大幅増
- ・コロナ対策関連費用が増加し収益を圧迫

US\$

	2019-20	2020-2021	前年比
収入	1,913,369	2,017,027	103,658
営業利益	1,302,847	1,287,279	-15,568
支出	1,866,565	2,658,441	791,876
営業経費	1,281,097	1,944,757	663,660
正味財産	-19,375	-641,414	-622,039

## 3. 2021-

### (1) Wリーグ将来構想の検討



男子		女子	
B 1	20	W	13
B 2	16		
B 3	11		
JSB	55	JSB	22
合計	102	合計	35

2021-2022シーズンにJ S Bの1チームがWリーグに参戦。

#### ① 将来構想委員会

今後のWリーグの在り方を議論するため、W J B Lの中に委員会を立ち上げた。

- ・女子バスケットボールをより魅力的なスポーツに育む。
- ・楽しめるスポーツとして地域スポーツの振興に寄与する。
- ・観る人に感動を与え、世界に通用する代表チームを編成し、女子バスケットボールを内外にアピールする

#### ② J B A, J S Bとの協働

J B A、J S Bと協働し、女子バスケットボールの更なる発展の道筋をつける。



Wリーグの価値向上



For FIBA Taskforce Meeting on Feb-4



# B.LEAGUE STATUS UPDATE

February 4, 2021

# AGENDA

- コロナ禍におけるB.LEAGUEの運営状況
- 財務状況
  - リーグ
  - クラブ
- アジア枠および東アジアスーパーリーグ（EASL）
- 「toto」への採用





## 規程・プロトコル

- COVID-19対策ガイドラインの制定
- PCR検査(選手・チームスタッフ・審判等)
- 感染症専門医とアドバイザー契約

## 財政支援

- クラブ支援金の支給  
(B1 : 3,300万円、B2 : 1,300万円)
- リーグにて対策に必要な物品 (サーモメーター、消毒液等) を購入し、各クラブに支給
- 政府支援3.6億円

## 政府の方針

- シーズン開始時より
- 収容可能人数上限 : 50%
- 緊急事態宣言 (Jan 8th ~ Feb 7th)
- 飲食禁止
  - 20時までの退館

### □ 55%の試合実施 (2月5日現在)

- 有観客での試合実施 : 593試合
- 無観客での試合実施 : 2試合
- 自治体要請による延期 : 4試合
- 選手の感染・接触調査による延期 : 5試合

### □ 自治体の要請によりAll-Star-Gameは中止

- 試合前日に急遽中止をアナウンス
- オンラインでの代替イベントを実施

### q 入場者数は-51%YOY

- B1試合平均(3,260@2019-20 --> 1,500@2020-21)
- B2試合平均(1,405@2019-20 --> 727@2020-21)

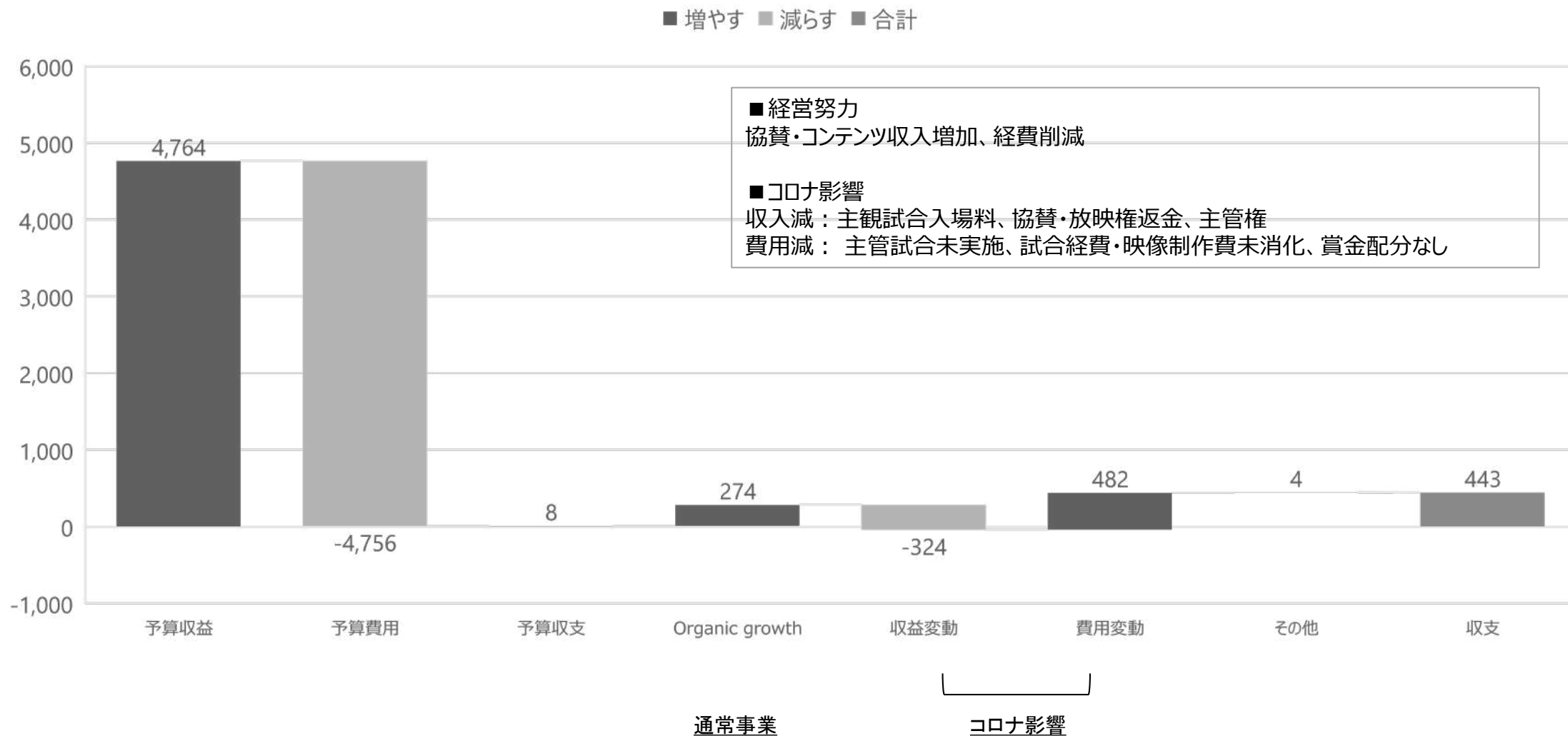
### □ 統一検査での陽性率は0.07%

- 統一検査10回実施 (のべ9552名)
- 陽性が7件

# 財務状況 - リーグ(2019-20シーズン)



- 2020年6月期決算の一般正味財産増減額（収支）は予算 8百万円に対して最終着地443百万円
- 経営努力による274Mの収支改善に加え、コロナ影響により324M収入は減少したが、費用も482M減少した

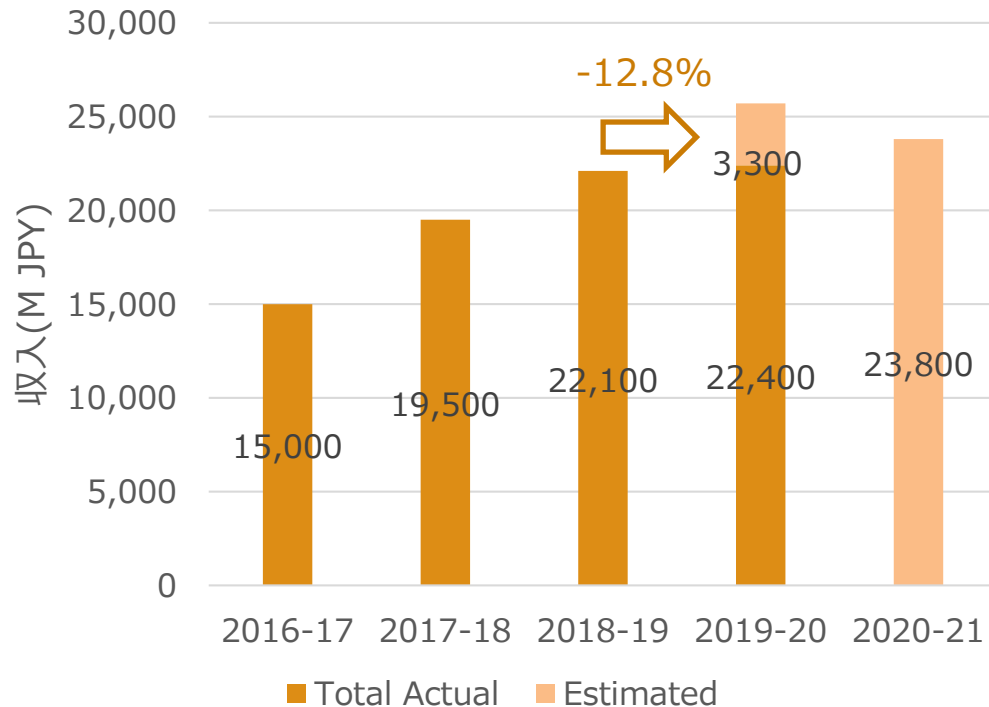


# 財務状況 - クラブ



- 2019-20シーズン：改善してきた財務基盤が深刻なダメージ
  - 入場者数減前年比37%による12.8%の減収影響を受け、22クラブが赤字計上
  - B1・B2全クラブが債務超過解消予定だったが、11クラブが債務超過に再度転じた
- 2020-21シーズン：それぞれ赤字4割、債務超過3割の見込み

クラブ総収入



	2018-19 Act	2019-20 BP	2019-20 Act	2020-21 Fcst
黒字クラブ	30	32	14	22
赤字クラブ	6	4	22	14
債務超過クラブ	1	0	11	11

# アジア特別枠の状況とEASL準備状況



- 今シーズンよりアジア特別枠を導入し、3か国から3人がプレー
- EASLの準備は順調に進捗中



#1 Thirty Ravena(PHI)  
SG  
三遠ネオフェニックス

#27 Jaemin Yang(KOR)  
SF  
信州ブレイブウォリアーズ

#23 Jin Liu (CHN)  
C  
西宮ストークス



#0 Taichi Nakamura  
PG/SG  
DB Promy



- Thirty Ravena選手の契約をきっかけにB.LEAGUEのFacebook、YouTubeにて英語実況入りのライブ配信を実施
- 最初の5試合で500万再生を記録。出場した13試合で合計800万再生
- Facebookの10万人のYouTubeで4万人のチャンネル登録者を獲得
- FIBA Asiaとも協力しB.LEAGUEのライブ配信を取り上げてもらうとともに、B.LEAGUEに関するニュースを発信してもらっている

- 理事会での審議を経て、2020年11月16日にEASLとB.LEAGUEとの契約に署名
- 2021年1月よりB.LEAGUE COOとEASL CEOの月次の進捗共有会議を開始
- EASLのオペレーションに向けた準備を開始
- 日本の緊急事態宣言が終了次第、対外発表予定
- EASLに動画や写真コンテンツを共有し、プロモーションを実施

# 2022-23シーズンよりtotoの対象に

- 2022-23シーズンからtotoくじの運営機構となることで、Bリーグが国の財源に貢献する公的な位置づけに
- 安定開催のための試合開催経費の支援を受けられること、プロモーションになることがベネフィットとなる。

## toto概要



## 不正防止の取組

<b>販売元</b>	日本スポーツ振興センター (JSC: 文科省の外郭団体)
<b>対象</b>	B.LEAGUEは2022-23シーズンから対象 (これまではJリーグおよび海外サッカーが対象)
<b>くじ方式</b>	1試合単位で購入可能 試合の勝敗と点差を予想する 購入は試合開始10分前まで
<b>払戻金</b>	購入者への払戻金は50% 残りから経費を差し引いた分は国庫納入スポーツ振興の助成やスポーツ団体の新型コロナ感染症対策に使われる

- ✓ JSCと協力して選手・審判・リーグの役員や職員に対する研修や啓蒙活動を実施予定
- ✓ 不正検知の仕組み
  - ✓ 国内向けはJSCが構築
  - ✓ 2020-21シーズンよりGenius SportsのIntegrity ServiceおよびMonitoring Systemを導入済



**B.LEAGUE**

**THANK YOU.**

# JBS2020 (案) について



# JAPAN BASKETBALL STANDARD 2020





# 過去4年間の振り返り

- JBS2016におけるこの4年は「強く・広く・社会のために」を掲げ、バスケ界の発展に向けた大きな仕組みを築き上げた

			成果	課題
強く	強化育成	54%	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 男子日本代表 WC・五輪出場/NBA選手3名輩出</li> <li>• Japan's Wayの設定</li> <li>• 2ヵ国との協定締結</li> <li>• 年代別育成方針・DC・エリート選手養成制度確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Japan's Wayを浸透させ、チームとして強く層の厚い代表（男女・3x3・アンダー）の確立 ※「奇跡」に頼らない</li> <li>• 世界に通じる選手の輩出 ※「奇跡」を自分たちで生み出す</li> </ul>
	組織	65%	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 都道府県協会の組織基盤の確立</li> <li>• 各年代（カテゴリー）における競技環境の再構築</li> <li>• FIBA,FIBA ASIA,EABAにおける地位確立</li> <li>• Bクラブユース設立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• JBA,PBA,各種連盟が事業計画を立て、推進し成果を出す</li> <li>• PBAとプロクラブが連携し地域のバスケ発展を進める</li> </ul>
	事業	50%	<ul style="list-style-type: none"> <li>• バスケットボール産業 300億円達成</li> <li>• JAPAN MADNESS2万人/試合 達成</li> <li>• 天皇杯/皇后杯、ウインターカップ 各2億円達成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 数値目標は達成できているが、組織機能は未確立（プロモーション・マーケティング・セールス・デジタル等）。早期に確立し、事業規模に追いつく組織力構築が不可欠</li> </ul>
広く	普及	53%	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全都道府県でリーグ戦の立ち上げ</li> <li>• 審判/指導者ライセンス保有者拡大</li> <li>• プロ審判輩出</li> <li>• B.LEAGUE 入場者 270万人達成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 競技者人口のプラス成長への取り組み（含むキッズ、3x3、エンジョイ、シニア計画の策定・推進）</li> <li>• 指導者の指導力向上（含むコンプライアンス・インテグリティ向上）</li> </ul>
社会のために	社会貢献	32%	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全国でアリーナ構想・計画推進の活動活性化</li> <li>• B.LEAGUE Hopeの立ち上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• JBAにおける社会的責任活動の立ち上げ・定着化（含む国際交流等）</li> </ul>

次の4年はこの**仕組みを機能させ成果を生むフェーズ**

# 今のバスケット界を取り巻く環境

- 今のバスケットを取り巻く環境を鑑みると、次の4年は過去の4年より厳しい環境・プレッシャーの掛かる環境。

	プラス要素	マイナス要素
外部環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スポーツの成長産業化の継続推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多様化する余暇の過ごし方</li> <li>● 少子化</li> <li>● 働き方改革</li> <li>● 外部環境変化スピードの加速</li> <li>● <b>コロナ禍</b></li> </ul>
内部環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2023年ワールドカップ</li> <li>● バスケットに対する期待値の高まり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● まだまだ低い全国のバスケット熱</li> <li>● 成果をあげる“解”が、いまだ手探りな状態</li> </ul>

**次の4年は先が見え難い・変化が激しい環境の中で  
視野を広げ・PDCAを回し・挑戦し続けることが求められるフェーズ**

# 次のフェーズに向けて

- JBS2020ではバスケット界がバリューアップのために“個”が強くなり、強い“個”がつながり、大きな力となるための4つの指針を示す。

## 過去4年間の振り返り

- 強く・広く・社会のために」を掲げ、バスケット界の発展に向けた大きな仕組みを築き上げた
- 次の4年はこの**仕組みを機能させ成果を生む**フェーズ

## 今のバスケット界を取り巻く環境

- 次の4年は過去の4年より厳しい環境・プレッシャーの掛かる環境。
- 次の4年は**先が見え難い・変化が激しい環境**の中で視野を広げ・PDCAを回し・挑戦し続けることが求められるフェーズ

**築いた仕組みを機能させ、厳しい環境下でバリューアップを達成するために、  
“個”が強くなり、強い“個”がつながり、大きな力となる必要がある**  
※“個”とは各団体・各Gr・各人

- 「何故、共に挑戦するのか？」を明確にするための「**BASKETBALL GOAL**」指針  
- 共通の目的を明確にし、常に挑戦し続ける活力が示されている状態
- GOAL達成に向け事業成長に不可欠な領域を示すための「**バリューアッププラン**」指針  
- 常に個が「稼ぐ」「磨く」「伝える」「日本を元気にする」のバリューアップサイクルを思考し、行動できる状態にする
- 強い“個”の連携・バリューアップ加速のための「**ALL BASKETBALL 戦略**」指針  
- バリューアップのための連携すべき領域が示され、個の果たす責任・役割・連携がとれている状態にする
- 「強い“個”」になるための「**組織強化**」指針  
- 各組織のあるべき姿が示され、その姿に向かってなすべきことが示されている状態にする



# バスケット 日本を元気に！



- 日本全国がバスケットで熱狂する
- 世界で活躍する選手が誇りに感じる
- オリンピックでの躍進
- 世界に誇れ、日本を元気にするナショナルアリーナがある

- 地域がバスケットで元気になる
- 地域のアリーナが地域活性の起爆剤になる
- どこでもいつでもだれでもバスケットを楽しめる環境がある
- 地元のクラブや選手の活躍が遠くにいる地元出身者の誇り・元気になる



- 子供も大人もバスケットを存分に楽しめる
- お父さん・お母さんもおじいちゃんおばあちゃんも子供（孫）の笑顔を見て元気になる
- 選手だけではなく審判・コーチも子供の夢になる（男の子も女の子も）

- 日本バスケット界の人材が世界バスケットを盛り上げる
- 日本バスケット界が新興国のバスケットを成長させる。社会課題の解決にも貢献する
- バスケット界で女性が活躍している



## 我々はこのような未来を創る“個”の集まりである

創りたい未来を示すキーワードは4つ。全ての仕事はこの4つに通じる

## *SMILE*

**最も笑顔を生み出すスポーツNo.1**となり、バスケを通じて生まれた笑顔が日本に活力を与える世界

## *Star*

世界に通じる魅力を有するスター選手を10人以上出し続け、日本中が世界へのチャレンジにワクワクする世界

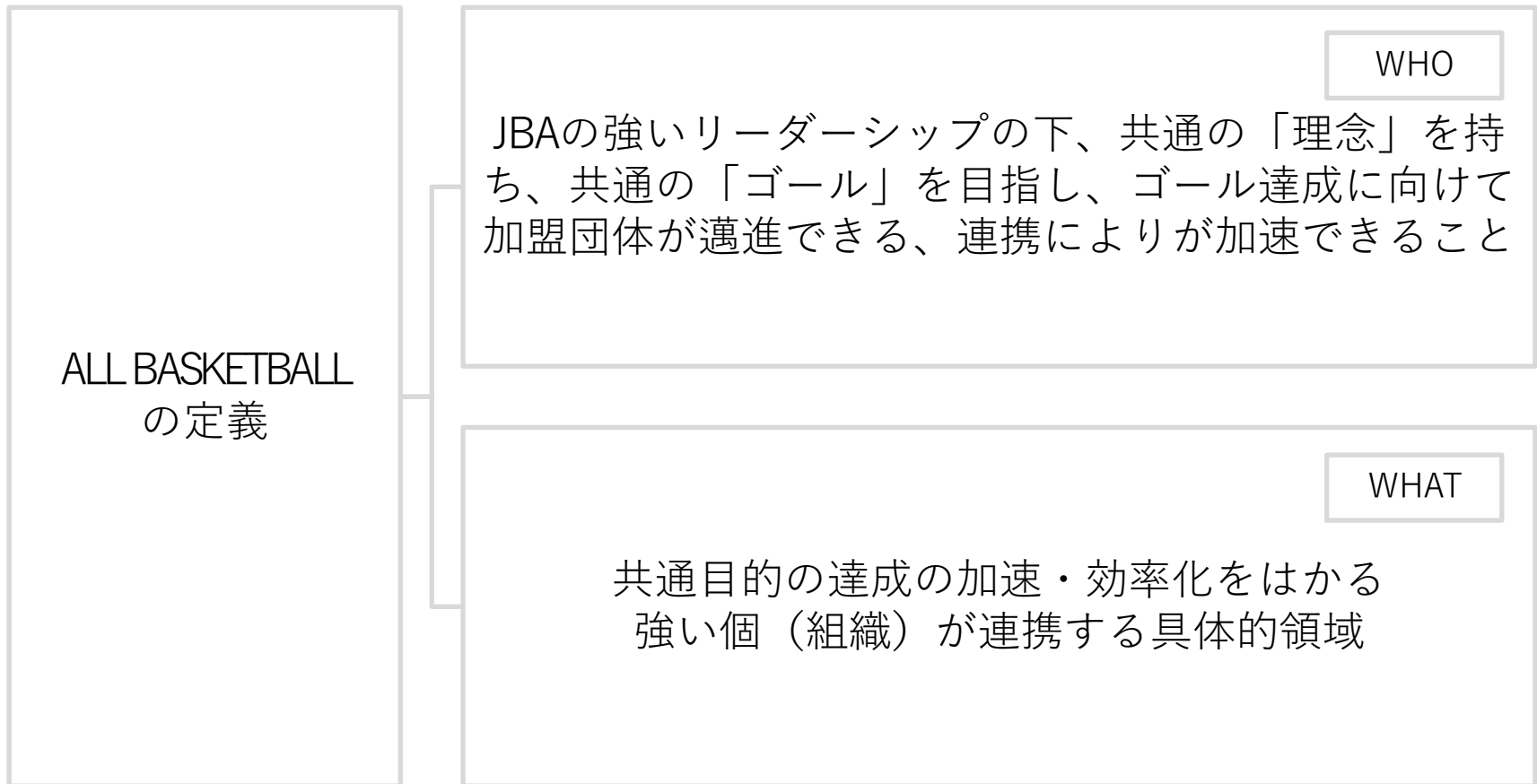
## *Dream*

世界に誇る「**バスケで魅了する夢の都市**」が47都道府県に存在し人々・文化・経済が活性化された世界

## *Team*

個をリスペクトしあい・チームでの価値を追求し、高め合う  
「**イノベーション集団**」

- 改めて、ALL BASKETBALLを2つの定義とする



# 目指したい“ALL BASKETBALL体制”

- JBAの強いリーダーシップの下、ゴール達成に向けて加盟団体が邁進できる、連携によりが加速できること



統括団体  
JBA

## 強いリーダーシップ

- バスケットが目指す未来・GOALを示し、旗振り役として強く推進する
- 加盟団体がそれぞれのGOALに向かって邁進できる環境を整え、活動を支援する
- GOAL達成・バリューアップが加速する領域は連携を強く進める
- 加盟団体の活動を把握し、課題が発生した時には迅速に解決する。
- 大きな課題は組織横断の知見を集約させて解決する

## ゴール達成に邁進する加盟団体



「稼ぐ」「伝える」専門家集団  
B.MARKETING



パラスポーツの革新児  
障がい者バスケット連盟



強い日本代表女子の基盤  
W LEAGUE



バスケット界のベンチャー  
B.LEAGUE



バスケット界の生産性を上げる  
B. CORPORATION



大学バスケットの強化・普及・発展  
JUBF (大学連盟)

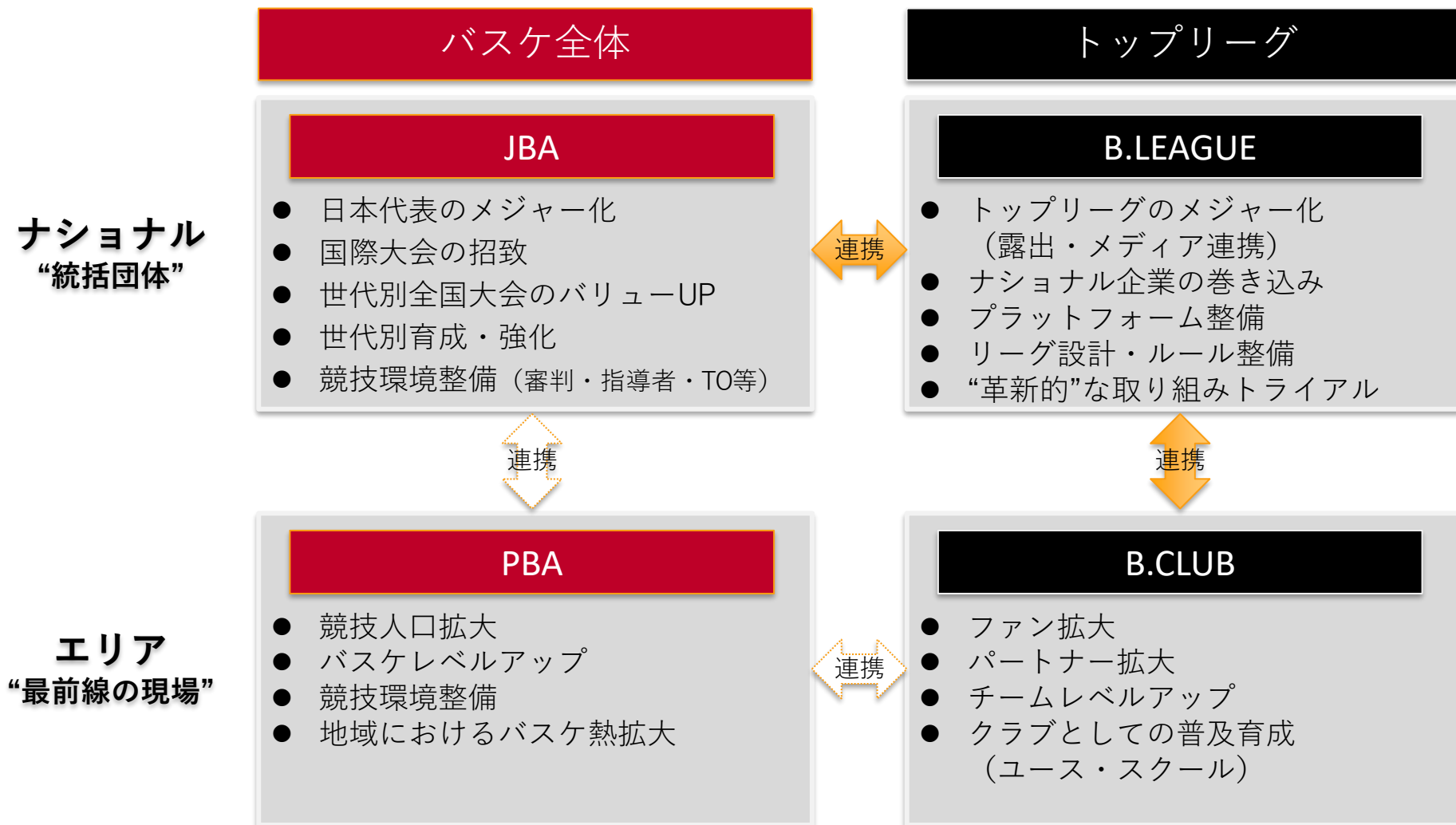


生涯のバスケットライフを築く  
JSB (社会人連盟)



エリアのバスケットを支える  
PBA

- JBAとしては更なるバスケット界発展のためには「地域におけるバスケット熱の拡大=エリアにおける活動の推進」が不可欠だと考える。





JAPAN  
BASKETBALL  
STANDARD 2020

**THANK YOU**

# 実態調査中間報告

## 1. 実態調査実施の目的

- ① **2022年度以降のD-fund制度の方針を定めるため**
- ② 都道府県における事業の推進

## 2. 調査内容

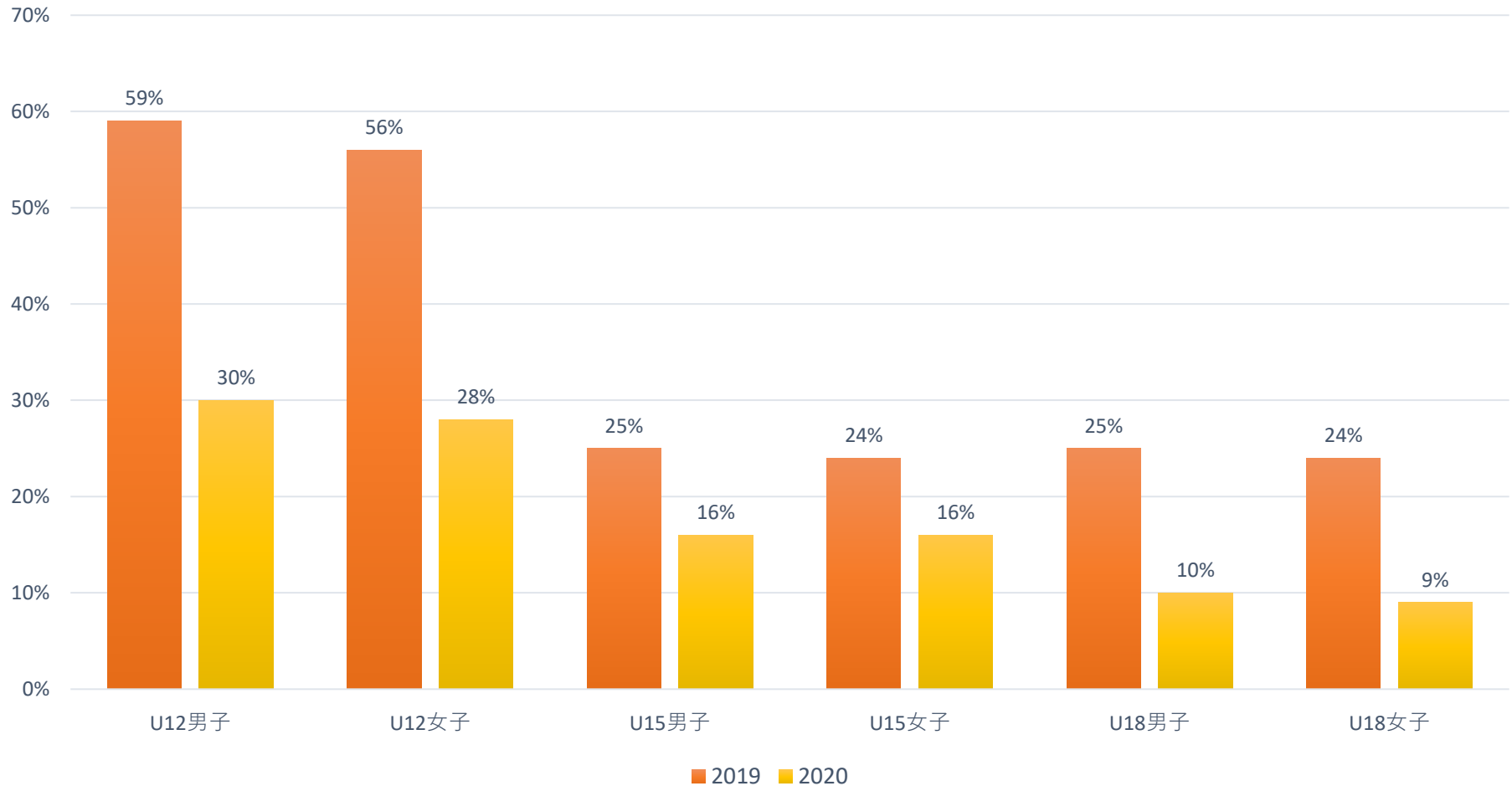
- ・依頼期間：2020年11月26日～2021年1月29日
- ・原則、2019年度の実績として依頼：「普及」、「育成」、「競技会」、「審判」、「指導者」、「トップリーグ連携」、「組織基盤」、「評議員/社員」、「理事」、「事務局」、「その他」
- 収支決算は、毎年度提出
- ・提出：46PBA

## 3. 中間報告：別紙

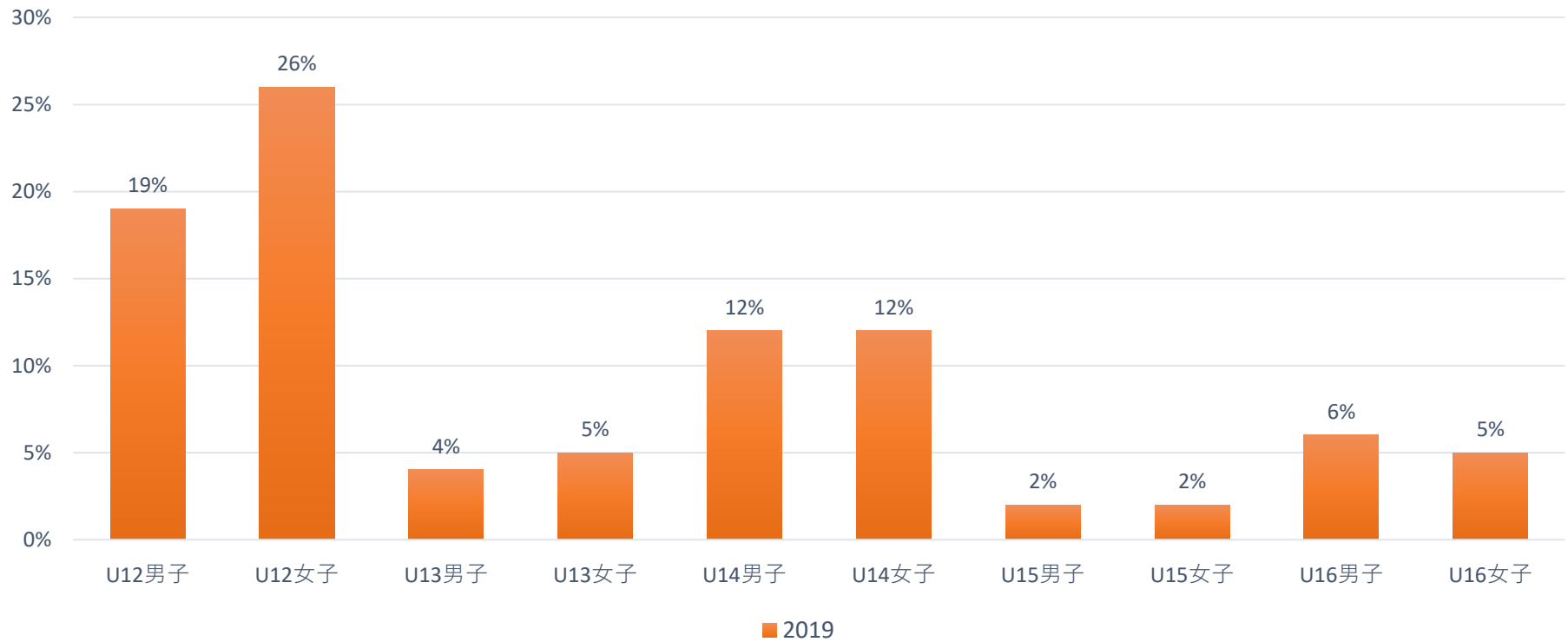
- ・今回の報告資料は、提出状況を取りまとめた内容
- ・**「実施している」が、ガイドラインに沿った内容での実施となっているか、「実施していない」が、実施できない理由がどうなのか、今回の実態調査では判明できない部分が見受けられるため、一部個別にヒヤリングを行う予定**

## 4. 今後の予定

- ・2022年度以降のD-fund制度方針提案→2021年6月度理事会提案予定
- ・6月度理事会提案前に、5月下旬～6月上旬にかけブロック別都道府県協会連絡会を実施



各カテゴリーにおける登録チーム数と参加チーム数から、参加率を算出した。



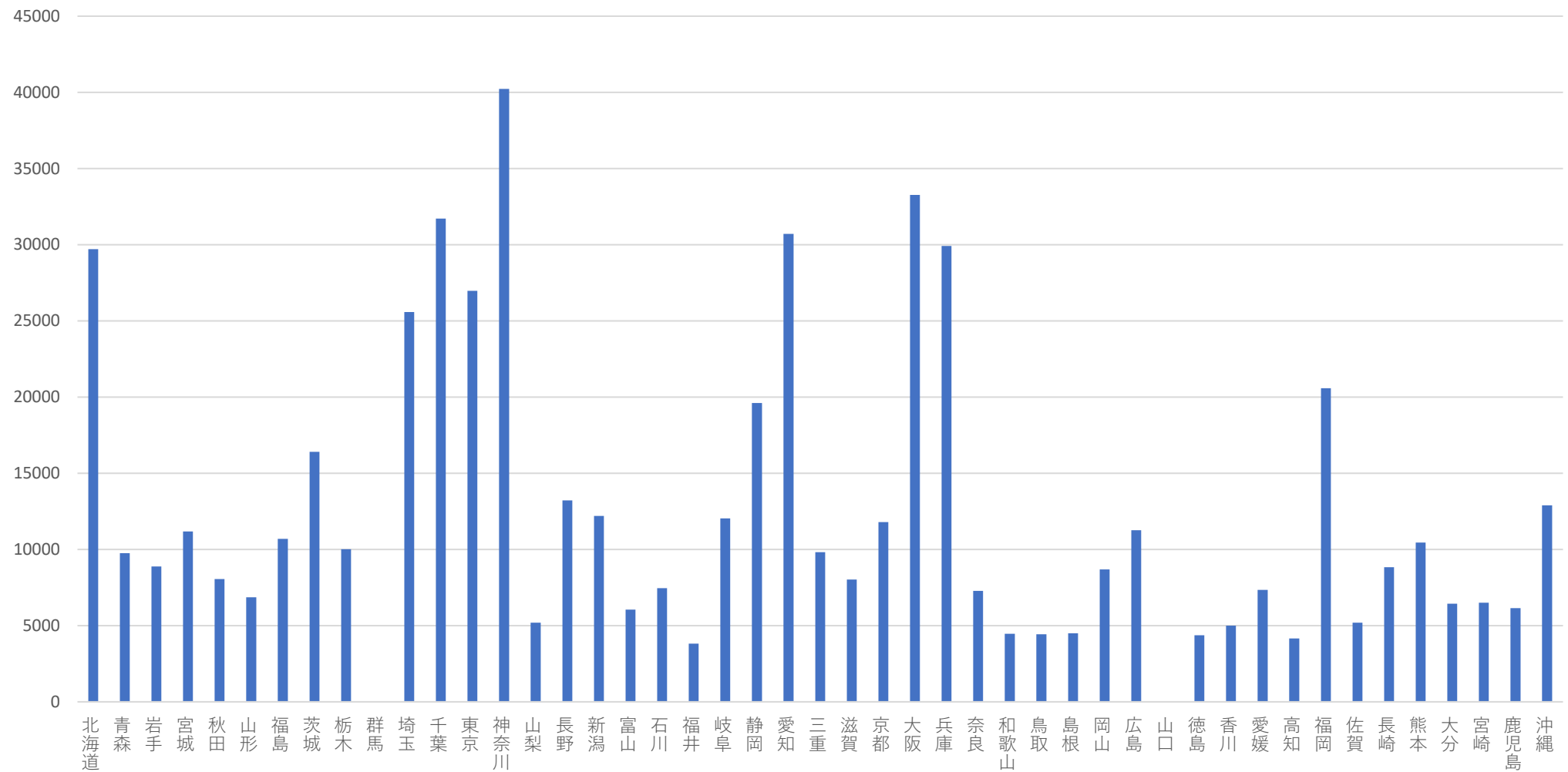
都道府県育成センターと地区育成センターの参加者の合計人数から、参加率を算出した。  
 ※U13はU14、U15はU16と合同開催のため、参加者もU14・U16に統合しているPBAあり。

2019年度のウインターカップ予選の実施状況について、質問項目の集計結果は下記の通り

◆肖像権利用の定めがある	15PBA
◆2019年度WC予選の放送や配信を実施した	28PBA
◆スポンサー等の協賛や後援があった	15PBA
◆入場料を徴収した	9PBA
◆プログラムを作成した	30PBA
◆プログラムを販売した	22PBA
◆記念グッズを作成し販売した	4PBA
◆地区予選から実施している	15PBA

2019年度の3x3予選（オープン/U18）の実施状況について、質問項目の集計結果は下記の通り

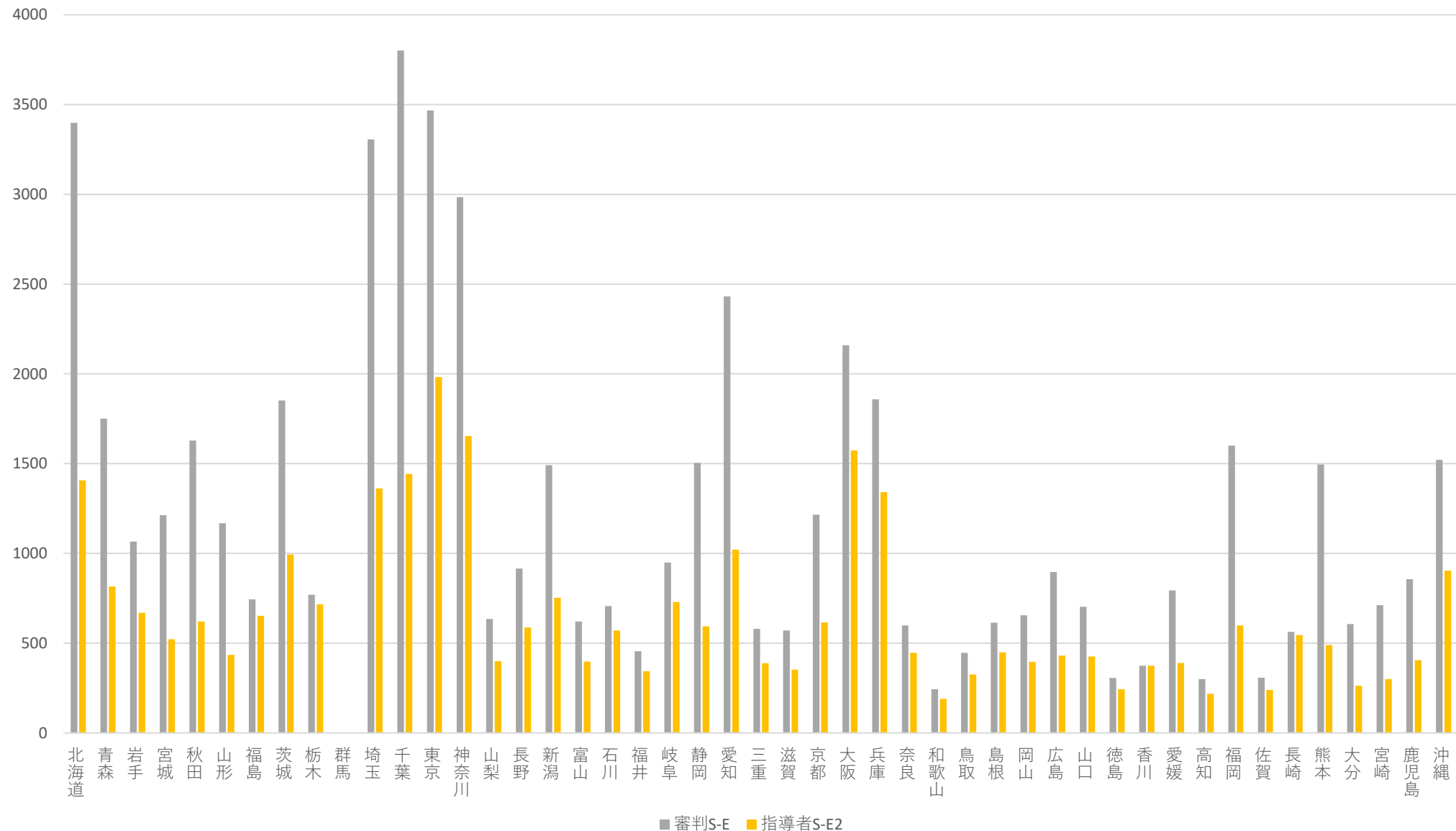
	オープン	U18
◆予選会を実施している	28PBA	34PBA
◆肖像権利用の定めがある	9PBA	11PBA
◆2019年度予選の放送や配信を実施した	2PBA	1PBA
◆スポンサー等の協賛や後援があった	5PBA	8PBA
◆入場料を徴収した	0PBA	0PBA
◆プログラムを作成した	2PBA	3PBA
◆プログラムを販売した	0PBA	1PBA
◆定員に達した（男子）	5PBA	11PBA
◆定員に達した（女子）	2PBA	4PBA





# 2019年度 登録者数 (審判、指導者)

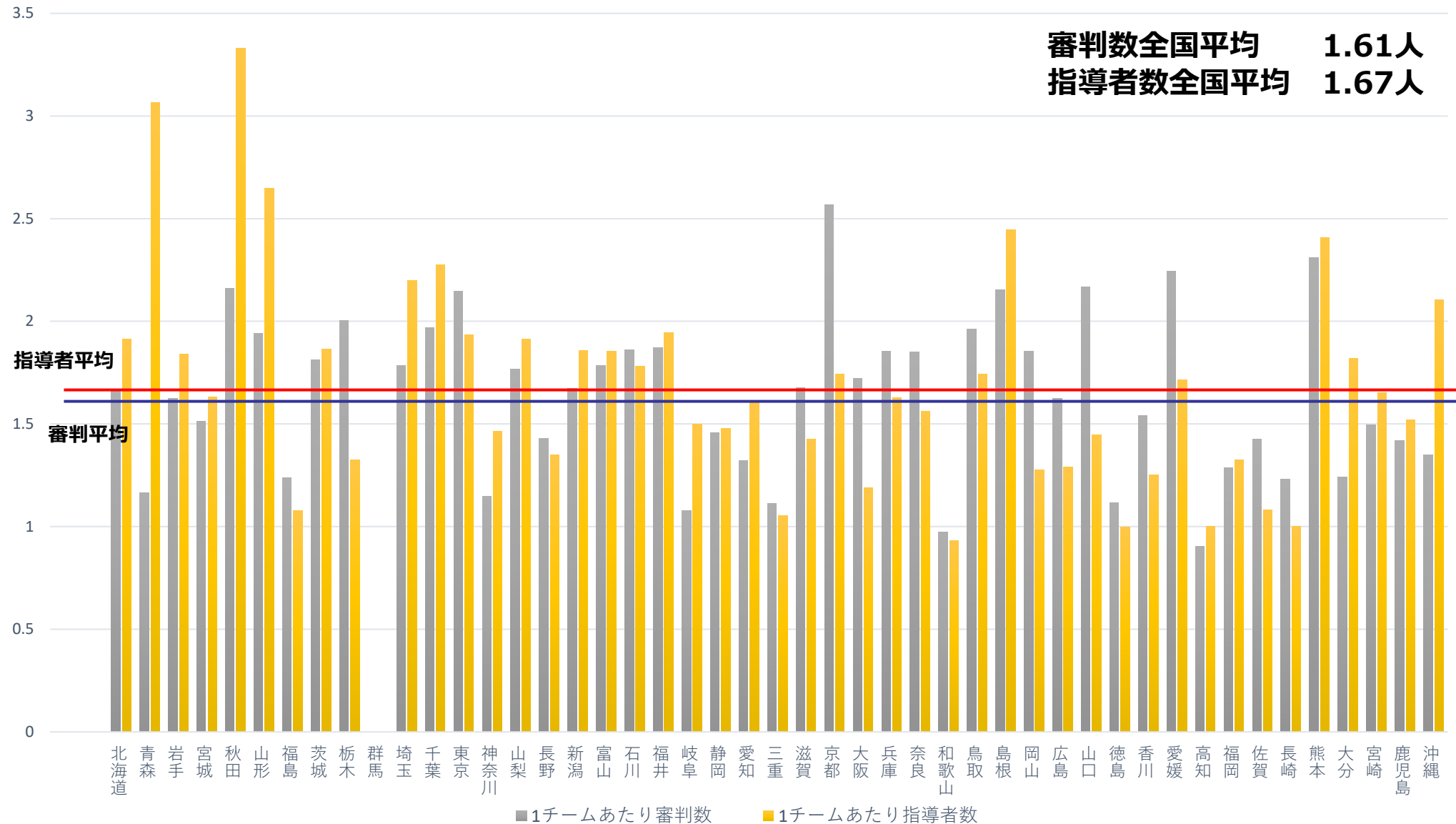
※実態調査でご提出いただいたデータを基にJBA作成



# 1チームあたり審判数・指導者数

※実態調査でご提出いただいたデータに基づきJBA作成

**審判数全国平均 1.61人**  
**指導者数全国平均 1.67人**



※審判2名以上、指導者1名以上が理想

	②構成			
	平均平均	男	女	女性比率
01_北海道	61.70	32	1	3.0%
02_青森	54.42	24	0	0.0%
03_岩手	55.38	22	2	8.3%
04_宮城	54.05	22	0	0.0%
05_秋田		27	0	0.0%
06_山形	54.46	28	0	0.0%
07_福島	56.88	32	0	0.0%
08_茨城	51.62	30	4	11.8%
09_栃木	49.73	27	3	10.0%
10_群馬				
11_埼玉	55.95	18	4	18.2%
12_千葉	53.15	37	2	5.1%
13_東京	60.50	16	2	11.1%
14_神奈川	61.59	21	1	4.5%
15_山梨	54.96	21	2	8.7%
16_長野	60.13	23	0	0.0%
17_新潟	56.10	19	1	5.0%
18_富山	51.53	17	0	0.0%
19_石川	52.33	20	4	16.7%
20_福井	52.76	20	1	4.8%
21_岐阜	60.36	9	2	18.2%
22_静岡	57.23	28	2	6.7%
23_愛知	57.63	16	3	15.8%
24_三重	51.08	23	2	8.0%

	②構成			
	平均平均	男	女	女性比率
25_滋賀	54.71	20	1	4.8%
26_京都	60.43	12	2	14.3%
27_大阪	54.63	26	1	3.7%
28_兵庫	53.92	35	2	5.4%
29_奈良	54.58	29	2	6.5%
30_和歌山	55.25	7	1	12.5%
31_鳥取	53.56	25	0	0.0%
32_島根	53.53	15	2	11.8%
33_岡山	53.58	24	0	0.0%
34_広島	55.43	19	2	9.5%
35_山口	60.08	25	0	0.0%
36_徳島	56.55	9	2	18.2%
37_香川	52.64	23	2	8.0%
38_愛媛	53.63	26	2	7.1%
39_高知	55.00	22	0	0.0%
40_福岡	53.75	31	1	3.1%
41_佐賀	50.17	28	1	3.4%
42_長崎	58.70	19	1	5.0%
43_熊本	55.28	23	2	8.0%
44_大分	52.32	24	1	4.0%
45_宮崎	55.91	22	0	0.0%
46_鹿児島	52.70	20	0	0.0%
47_沖縄	56.37	19	0	0.0%

役員の報酬について  
規程があるのは**30PBA**

全都道府県での役員平均年齢は**55.25歳**

女性理事割合は**5.6%**  
女性理事0名のPBAは  
**14PBA**

◆2019年度の決算書を開示している	20PBA
◆評議員会の議事録を開示している	21PBA
◆理事会の議事録を開示している	22PBA
◆協会のビジョンがある	19PBA
◆中長期計画を策定している	9PBA
◆協会専用の事務局として設置されている	43PBA
◆マーケティング担当がいる	9PBA
◆マーケティングにおけるセールスメニューがある	6PBA
◆競技会やイベントに関するスポンサーやパートナーがいる	21PBA
◆地元放送局・新聞社との連携をしている	21PBA
◆ハラスメント対策を実施している	11PBA
◆暴力根絶窓口を設置している	15PBA

- ◆ 実態調査とは別に毎年度PBA決算報告の提出をいただいている
- ◆ 2015年度PBA決算と2019年度PBA決算を比較
  - ⇒2015年度当時は、ガバナンス方針を定めておらず、PBAや各種連盟等がそれぞれの登録料で事業をまかなっていた状況。
  - ⇒2018年度、国内ガバナンス構築のため登録制度や組織再編を行い、JBAとPBAが主体となったガバナンス元年となった。2018年度は、まだガバナンスが整っていない可能性があるため、2019年度の決算で比較した。
- ◆ JBAも2015年度から2020年度にかけ、事業規模が3倍になっている

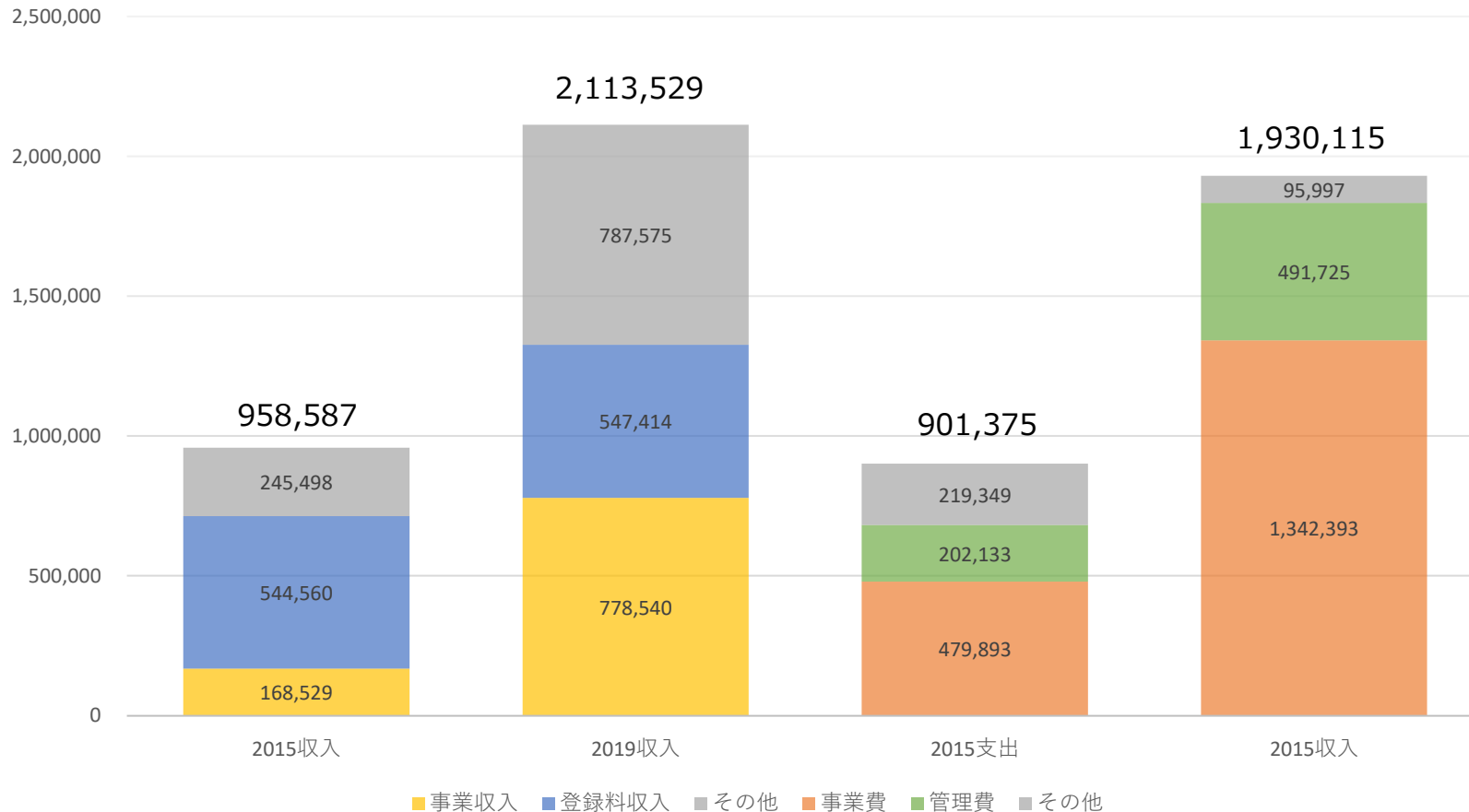


PBAガバナンス構築に向け、PBA自体も事業規模が拡大したが、一方ではPBAにおける業務が増え、ボランティアを主としたPBAとしては、今後の組織運営体制の構築が課題である



2022年度以降のD-fund方針を検討するにあたり、今回の実態調査とあわせ、PBA財務状況の推移やPBAの課題等も踏まえ、新たな方針を検討する

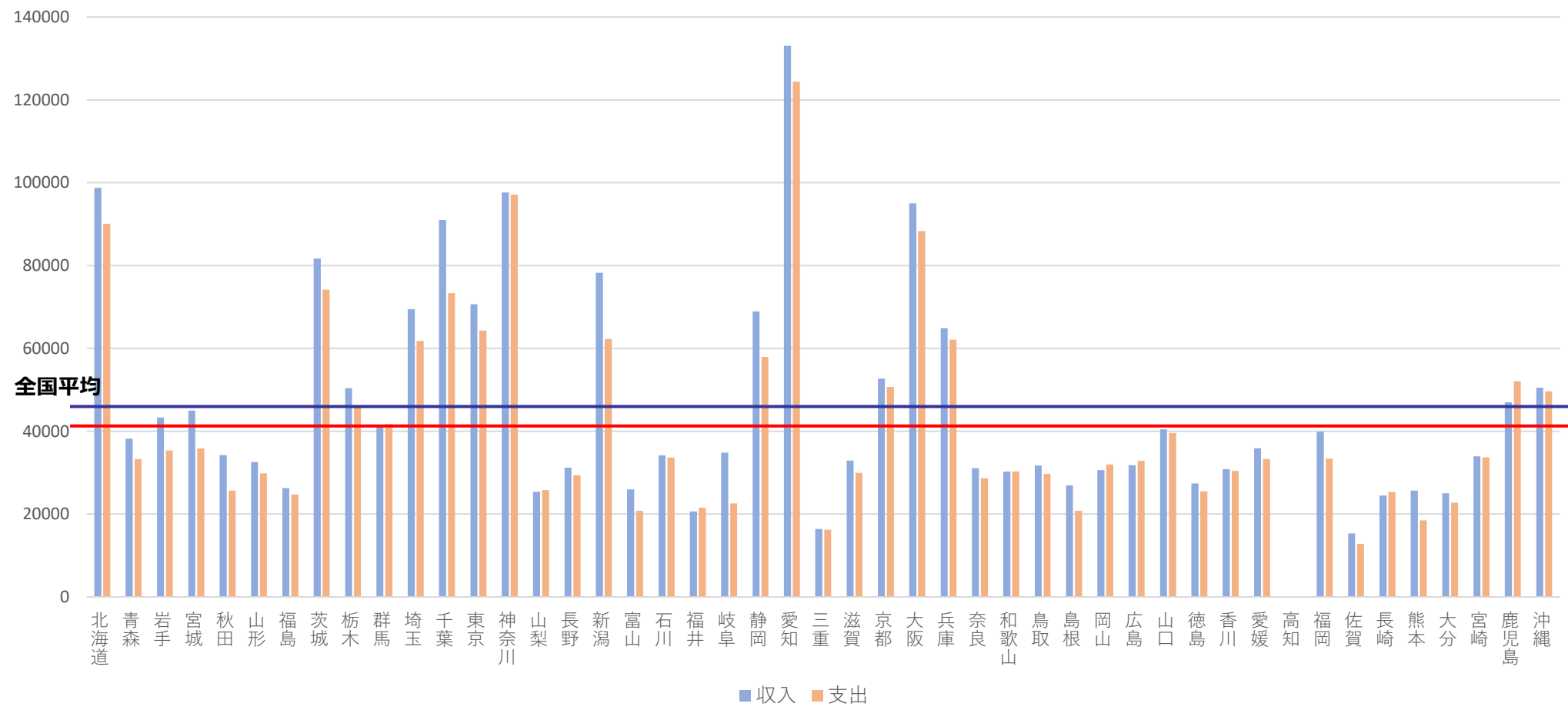
(単位：千円)



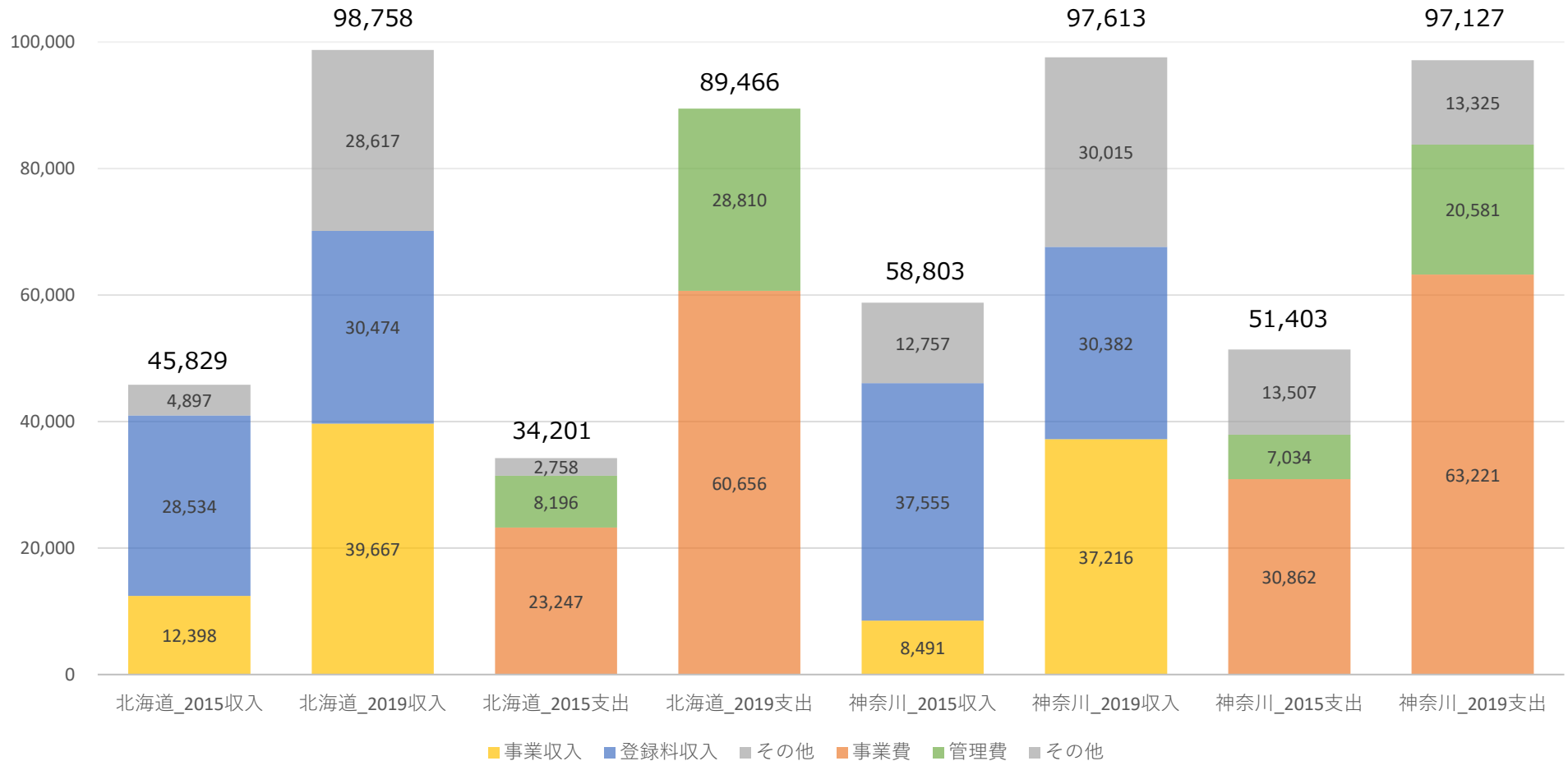
※2019年度の「その他収入」については、D-fund収入を含む

- 2015年度と2019年度の収支決算について、全体での登録料収入はほぼ横ばいだが、事業収入は約4.6倍となっている。
- 2015年度は、登録料が事業費に使用されていた傾向が見受けられるが、2019年度は登録料が管理費に使用されている傾向にある。

(単位：千円)

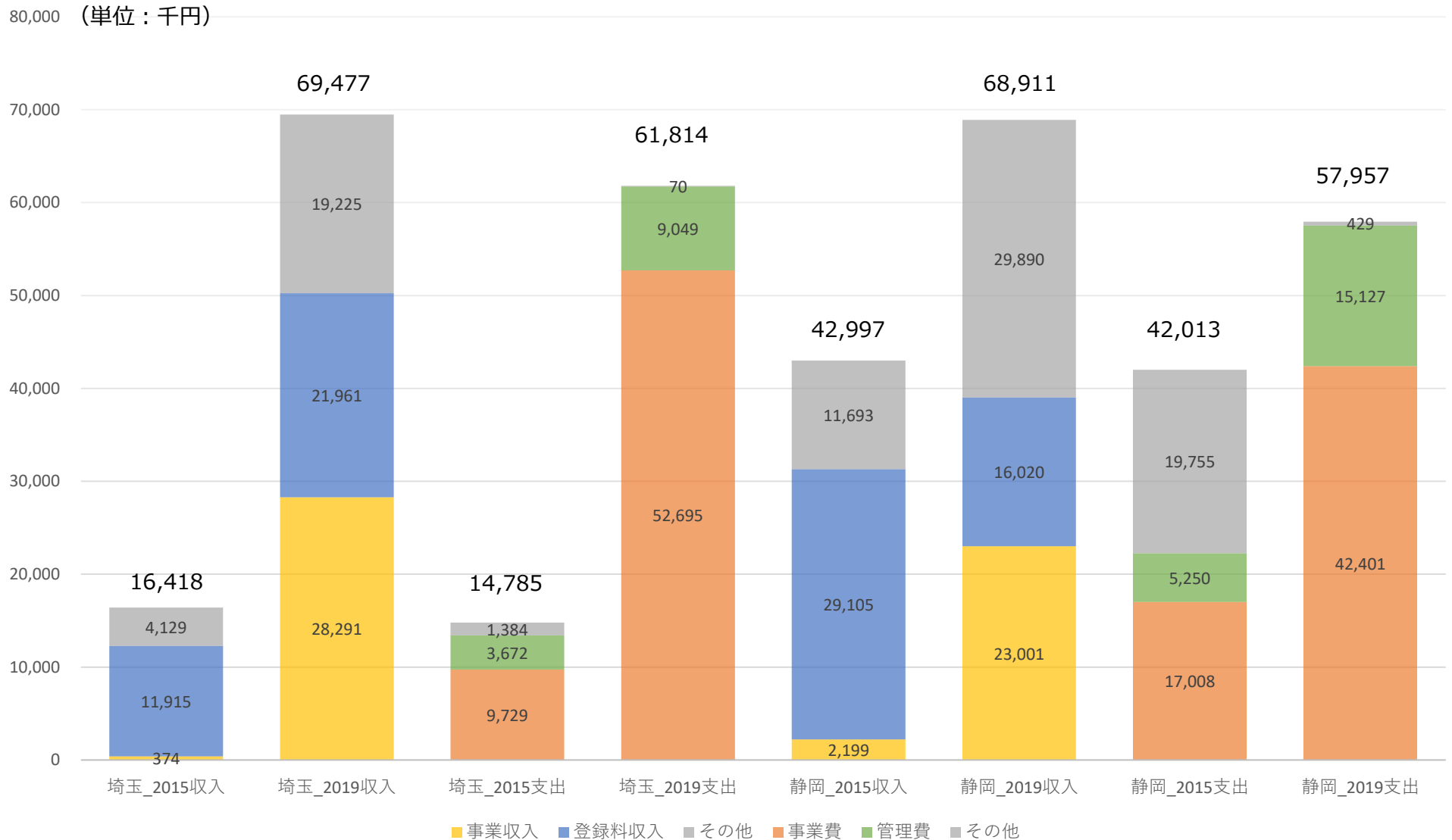


120,000 (単位：千円)



北海道・神奈川県は、2018年度より市区町村協会も含めたガバナンス体制を構築し、事業規模も大きく変化し、登録料や事業においても大幅に見直しを行った。



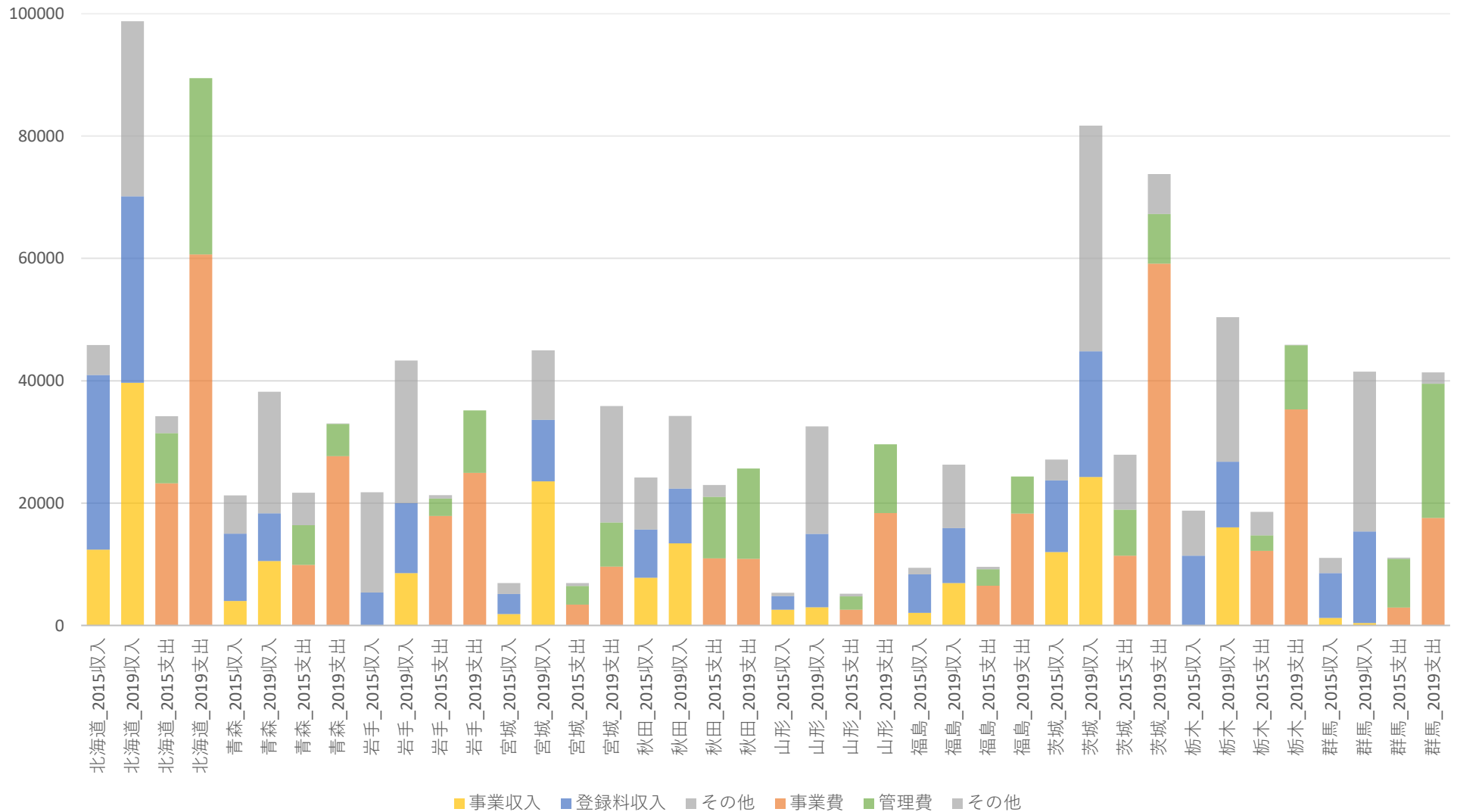


2015年度は登録料収入で事業費をまかっていたが、2019年度は登録費は管理費に使用され、事業の整備を行った背景が見受けられる。

# 都道府県収支比較 (2015年度・2019年度)

※ご提出いただいた決算書  
データを基にJBA作成

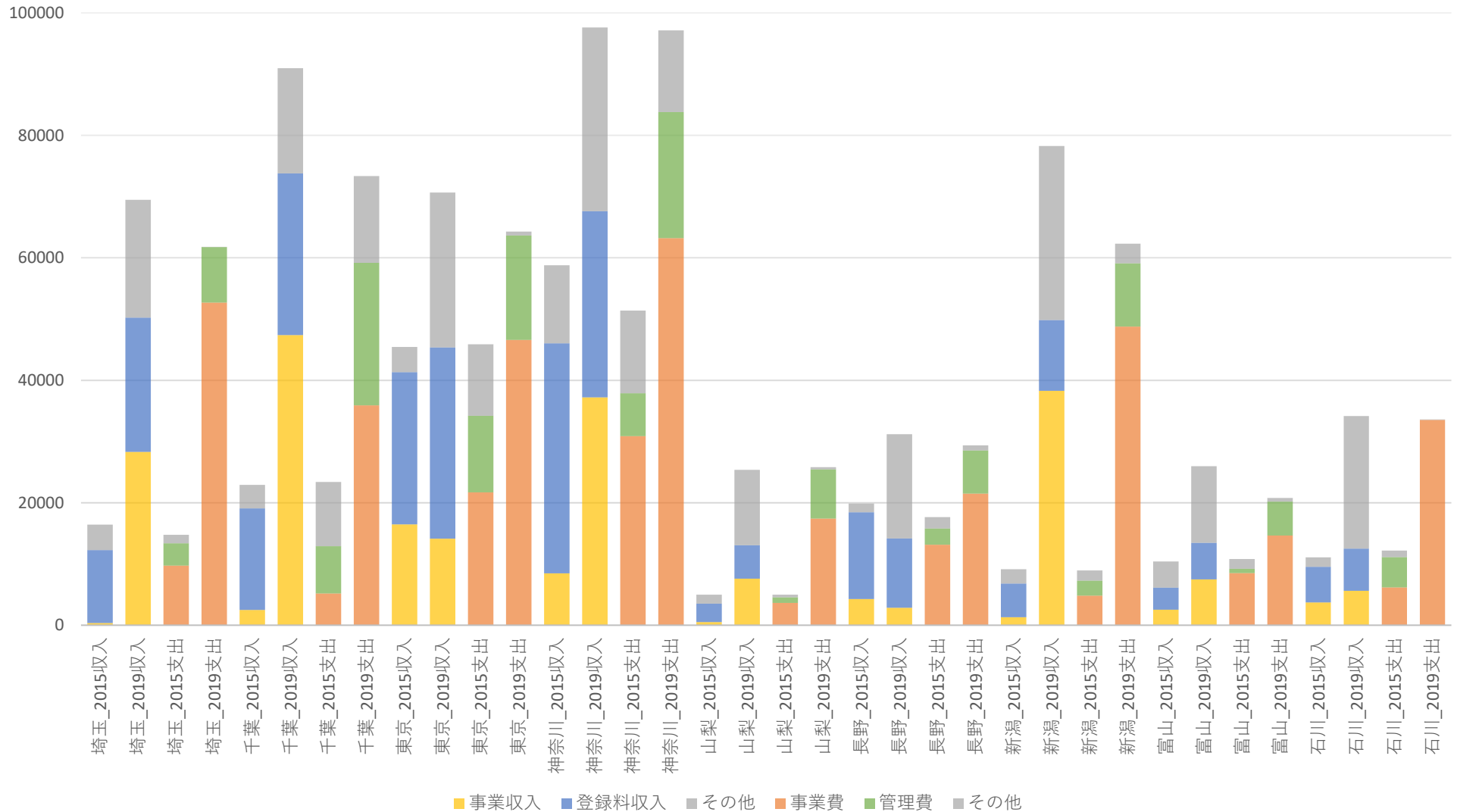
120000 (単位：千円)



# 都道府県収支比較 (2015年度・2019年度)

※ご提出いただいた決算書  
データを基にJBA作成

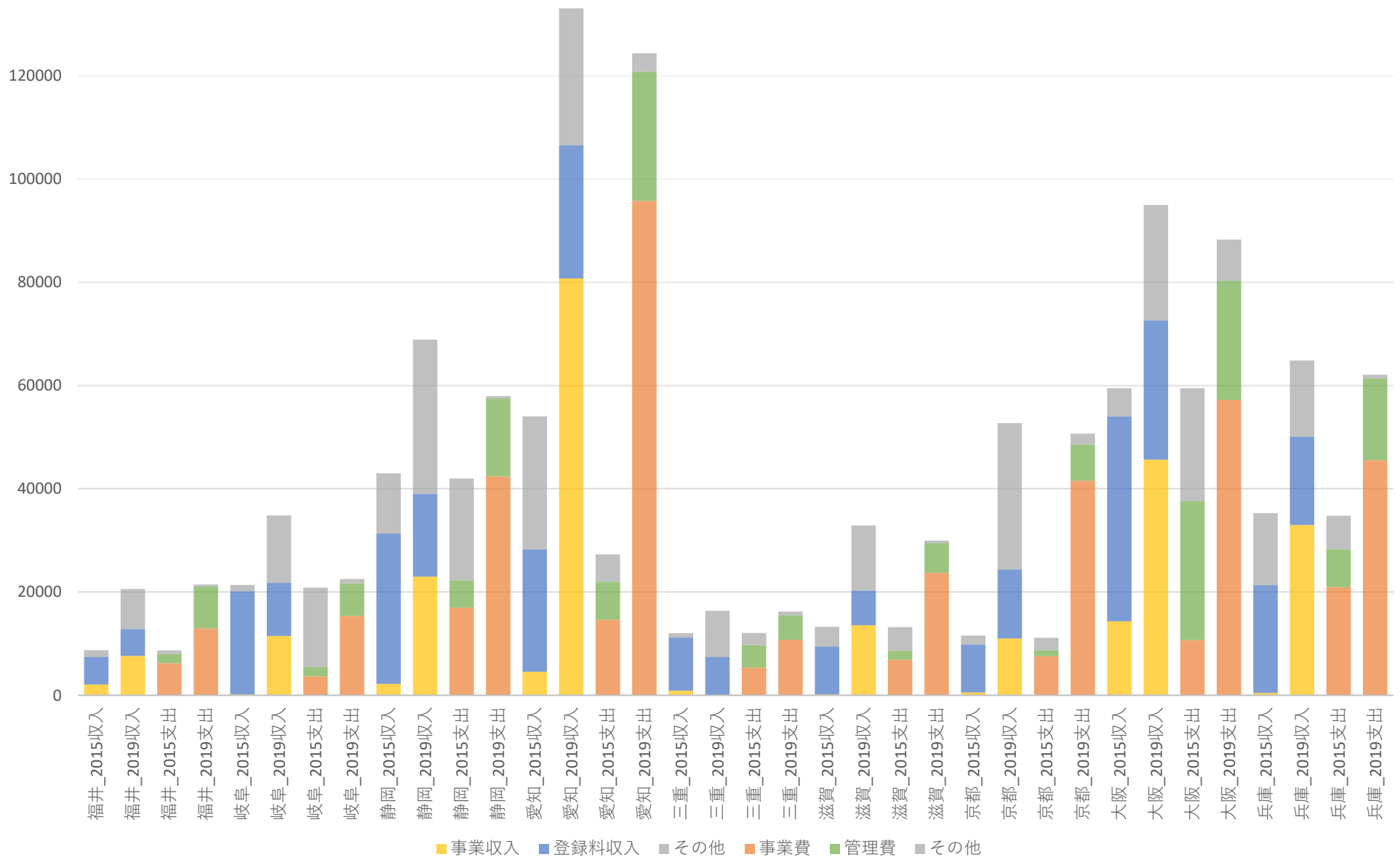
120000 (単位：千円)



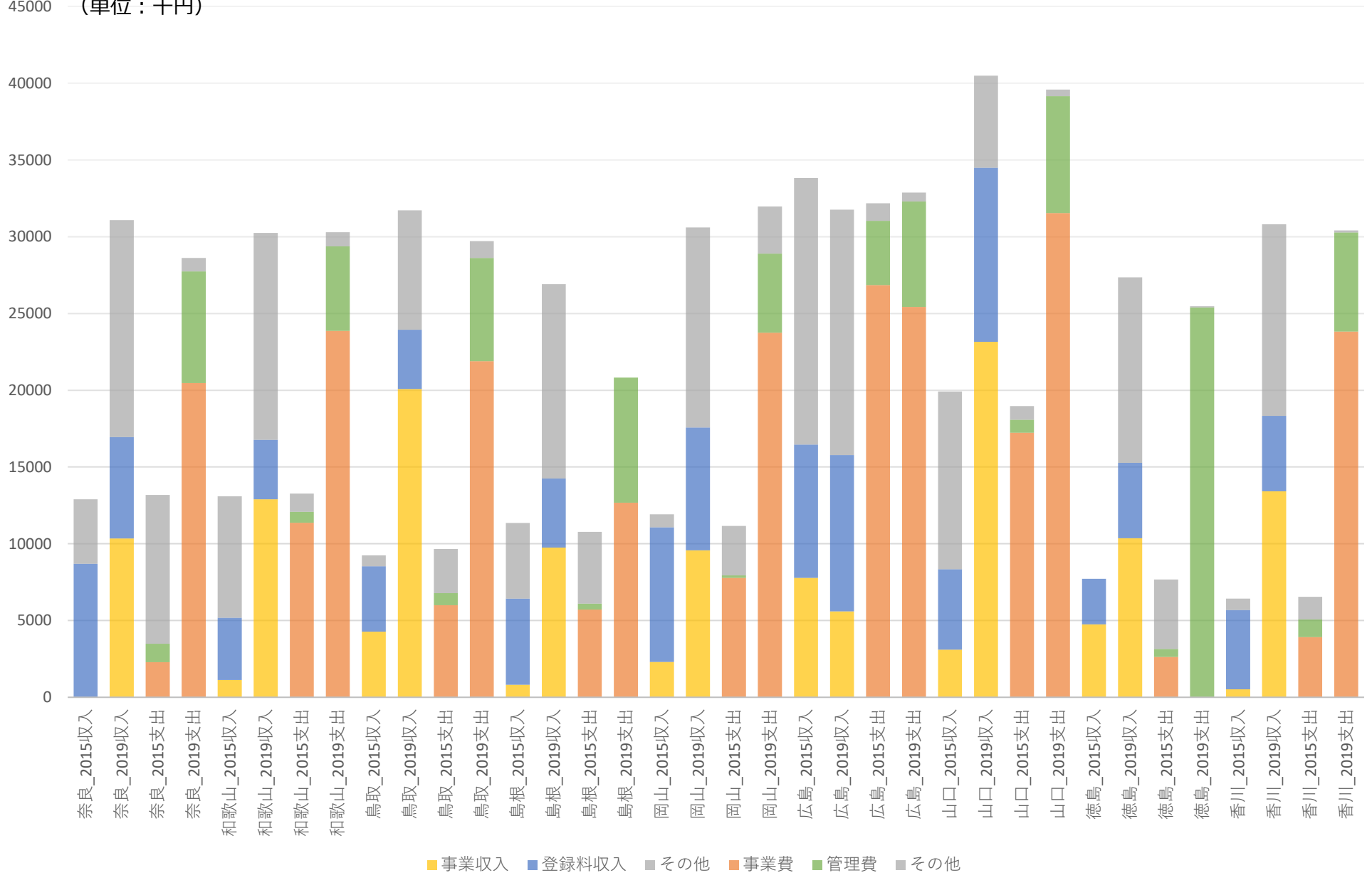
# 都道府県収支比較 (2015年度・2019年度)

※ご提出いただいた決算書データを基にJBA作成

140000 (単位：千円)



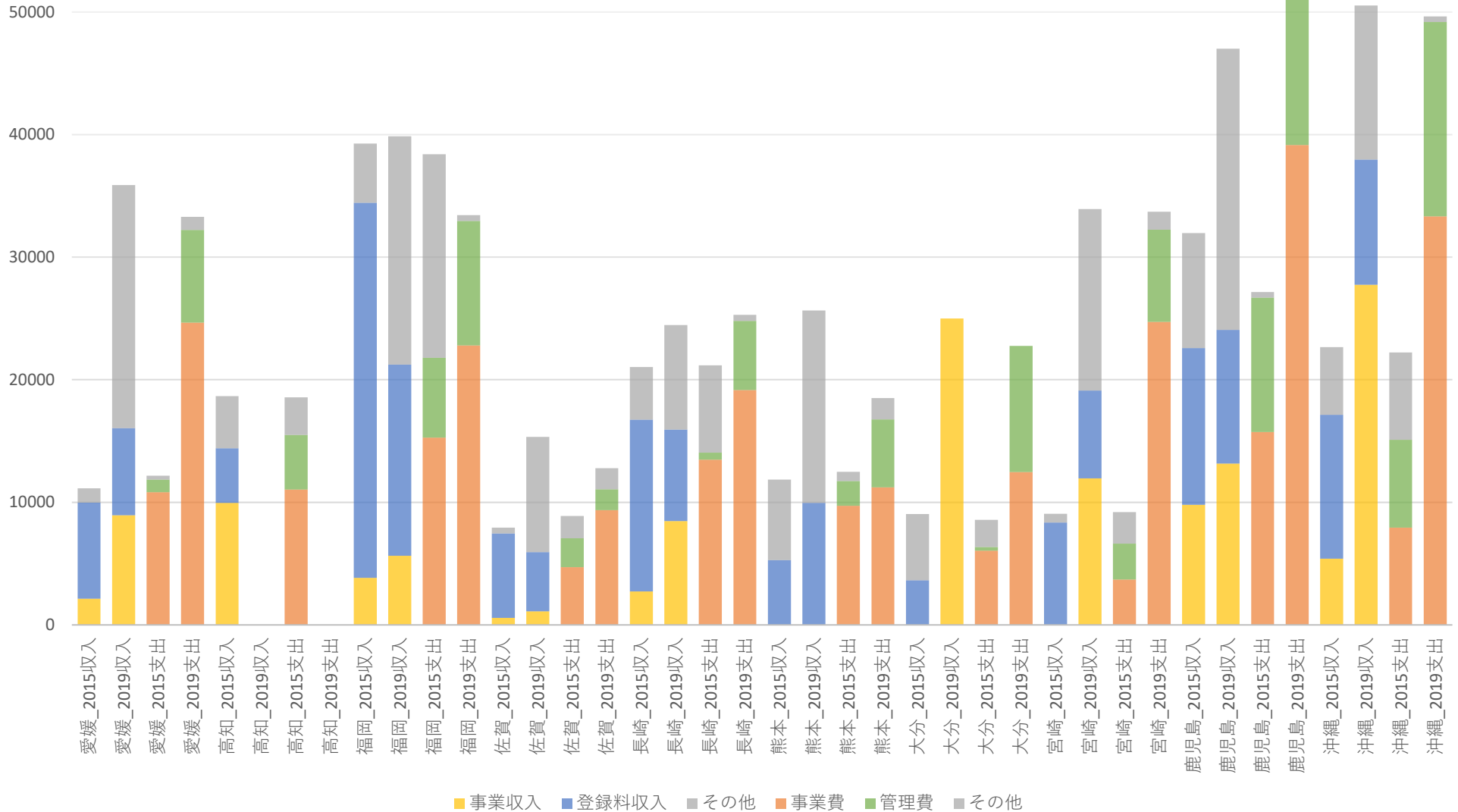
(単位：千円)



# 都道府県収支比較 (2015年度・2019年度)

※ご提出いただいた決算書データを基にJBA作成

60000 (単位：千円)





# FIBA Basketball World Cup 2023

# About 2023

FIBA史上初めて3か国共催モデルにてワールドカップを開催

## HOST NATIONS

### ▶フィリピン – 決勝・予選R

- ・ Araneta Coliseum
- ・ MOU Arena
- ・ Philippine Arena

### ▶日本-予選R

- ・ 沖縄アリーナ（沖縄県沖縄市）

### ▶インドネシア-予選R

- ・ Istora Senayan Arena

## SCHEDULE

2023年8月25日～9月10日

※*World Cup Qualifiers*は2021年11月から世界各地で  
*Home&Away*方式で開催される。

## TEAMS

世界トップ32か国が参加予定





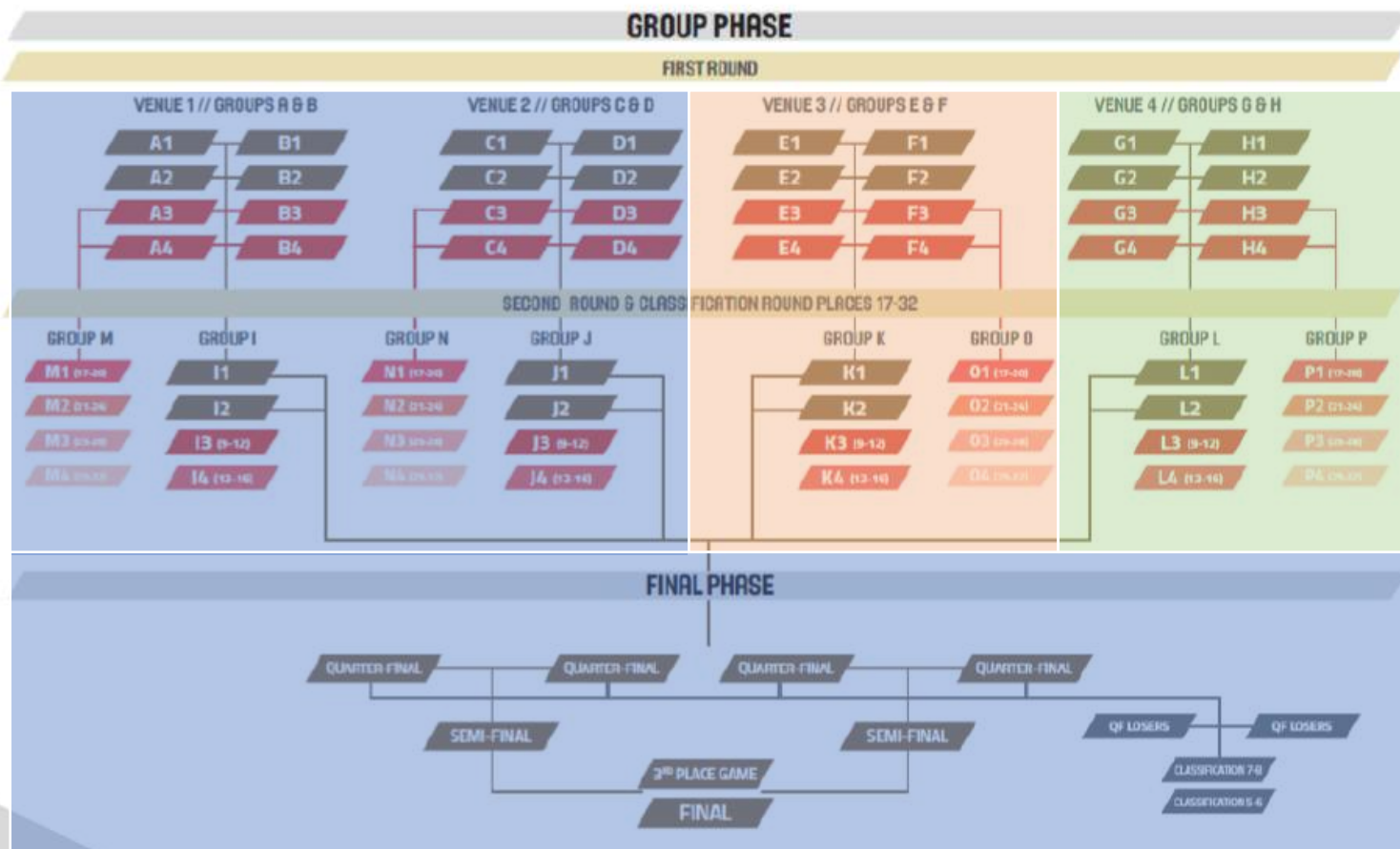
# Competition Schedule

フィリピン、日本、インドネシアで予選ラウンドが同時に開催され、予選を勝ち抜いた8チームがフィリピンに集結する。

**フィリピン**  
16チーム  
17日間・32試合

**日本**  
8チーム  
10日間・20試合

**インドネシア**  
8チーム  
10日間・20試合



# THE JOURNEY TO THE



W杯出場に向け、2021年からW杯予選を実施  
開催国枠でPHIとJPNの出場は確定している。

FIBA  
BASKETBALL  
WORLD CUP 2023  
QUALIFIERS  
DRAW

MARCH  
2021

NOVEMBER  
22 - 30

FEBRUARY 21 -  
MARCH 1

JUNE 27 -  
JULY 5

AUGUST  
22 - 30

NOVEMBER  
7 - 15

FEBRUARY  
26 - 28

MARCH  
2023



AUGUST 25 -  
SEPTEMBER 10

## 2021

## 2022

## 2023

ROUND 1

ROUND 2

32 TEAMS

AFRICA = 16 TEAMS  
ASIA = 16 TEAMS  
AMERICAS = 16 TEAMS  
EUROPE = 32 TEAMS

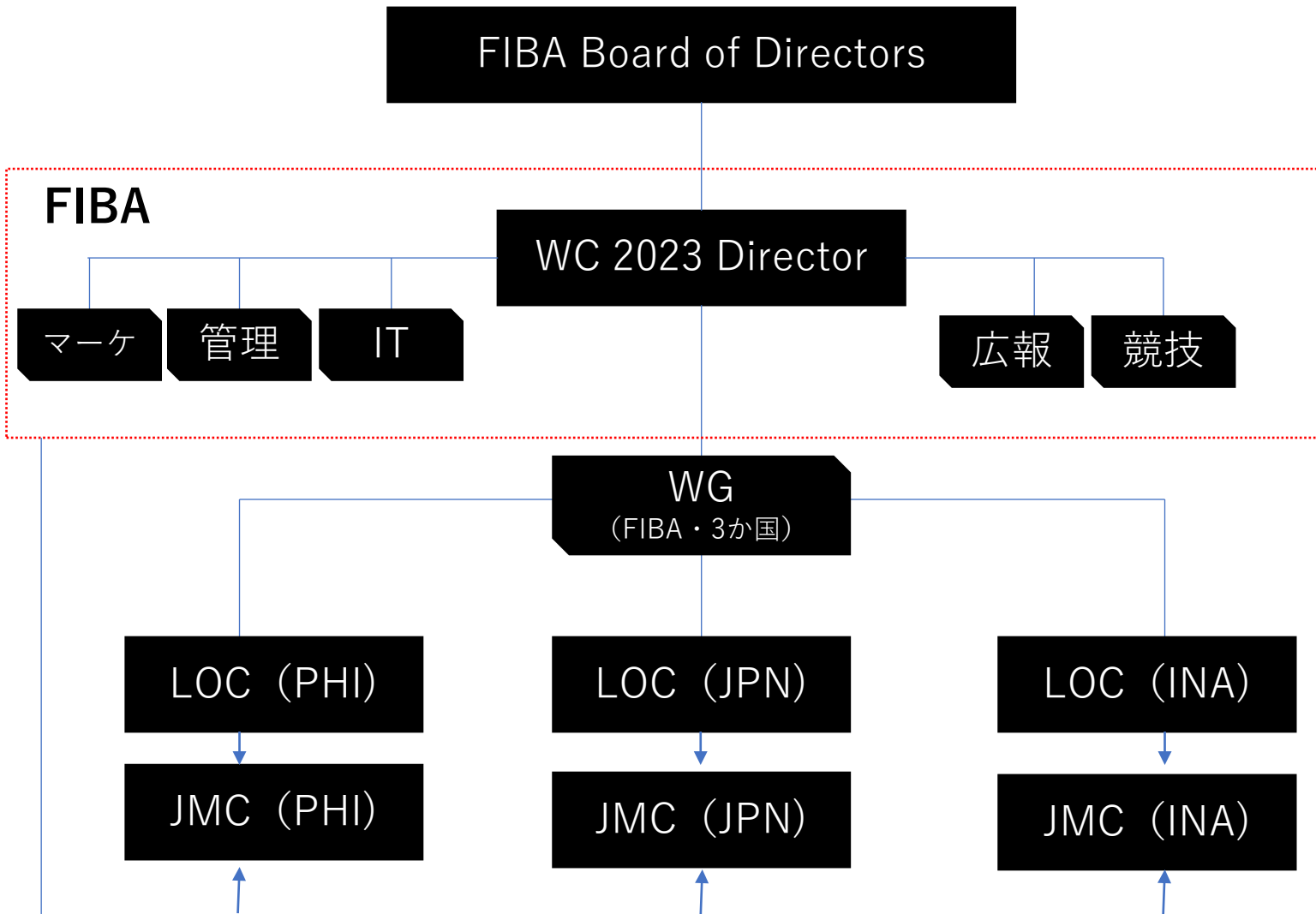
PHI  
JPN  
INA\*  
AFRICA = 5 TEAMS  
AMERICAS = 7 TEAMS  
ASIA / OCEANIA = 5\*\* TEAMS  
EUROPE = 12 TEAMS

\*INA will automatically qualify if among the best 8 teams of the FIBA Asia Cup 2021.

\*\* 5 if INA is automatically qualified / 5 if INA is not automatically qualified

# Organizational Structure

本大会はBoard of Directorsを上位組織に置きながら、各国はLOCを設立し、事業面はFIBAとの共同組織JMCを設置して運営を行う



## ●FIBAのビジョン

世界のトップ5と認識されるプレミアムスポーツイベントの1つとなる

## ●FIBAのミッション

2023年に最も話題になり、最も視聴されたスポーツイベントとなる

## ◆ロゴについて

### ・ロゴ要素

- ・ハートデザイン
- ・トロフィーシルエット
- ・“23”（2023年）
- ・イベントテキスト
- ・商標登録可否確認済み

・キーマーケットとなる12か国からファンを集めたグループインタビューを実施

▶ポジティブな反応のみ





**BASKETBALL**  
CORPORATION CO.,LTD.

ALL FOR THE SPORTS OF JAPAN

# スポーツ団体ガバナンスコードについて ～JBA対応～

2021年3月21日

# 1. NF向けコード概要①



BASKETBALL  
CORPORATION CO.,LTD.

## ◆対象

➤コードの対象となるスポーツ団体とは、「**スポーツの振興のための事業を行うことを主たる目的とする団体**」（スポーツ基本法第2条第2項）

➤団体の立ち位置に応じて、遵守するコードは2種類

### ①中央競技団体（NF）向コード（原則：全13事項）の対象

- JSPOに加盟する中央競技団体、都道府県スポーツ協会、スポーツ団体（JSPO加盟団体規程による遵守義務。但し準加盟・承認団体は努力義務）
- JOCに加盟する中央競技団体、スポーツ団体（準加盟団体・承認団体は努力義務）
- JPSAに加盟するスポーツ団体のうち、日本パラリンピック委員会に加盟する団体

### ②一般団体向コード（原則：全6事項）の対象

- JSPOの準加盟・承認団体
- JOCの準加盟・承認団体
- ①以外のスポーツ団体

➤一般団体向コードの対象団体であっても、高いレベルのガバナンスの確保が求められると自ら判断する場合、積極的にNF向コードの適合を目指し、その遵守状況について自己説明及び公表を行うことが期待される（スポーツ庁）

# 1. NF向けコード概要②



BASKETBALL  
CORPORATION CO.,LTD.  
ALL FOR THE SPORTS OF JAPAN

## ◆ NF向コード（13原則）

	規定	内容
原則1	組織運営等に関する基本計画を策定し公表すべき	中長期基本計画、人材の採用・育成計画、財務の健全性確保に関する計画の策定、公表
原則2	適切な組織運営を確保するための役員等の体制を整備すべき	組織の役員および評議員の多様性確保（外部理事・評議員、女性理事・評議員）、理事会規模の適正化および実効性確保、役員の新陳代謝を図る仕組みの設定（理事が原則として10年を超えて在任することがないように再任回数の上限を設定等）、独立した諮問委員会としての役員候補者選考委員会の設置及び同委員会構成員への有識者の配置
原則3	組織運営等に必要な規程を整備すべき	中央競技団体およびその役職員が法令を遵守するために必要な規程、代表選手の選考等に関する規程、審判員の選考に関する規程等の整備
原則4	コンプライアンス委員会を設置すべき	コンプライアンス委員会の構成員に弁護士、公認会計士等の有識者を配置等
原則5	コンプライアンス強化のための教育を実施すべき	中央競技団体役員、選手、指導者、審判員向けのコンプライアンス教育の実施
原則6	法務、会計等の体制を構築すべき	日常的なサポート体制の構築、公正な会計原則の遵守、国庫補助金等の利用の際の法令・ガイドラインの遵守
原則7	適切な情報開示を行うべき	財務情報、選手選考基準、ガバナンスコードの遵守状況に関する情報等の開示
原則8	利益相反を適切に管理すべき	役員、選手、指導者等の関係当事者と中央競技団体との間に生じうる利益相反の管理、利益相反ポリシーの作成
原則9	通報制度を構築すべき	通報制度の設置・周知 不利益取扱いの禁止等、弁護士等の関与
原則10	懲罰制度を構築すべき	禁止行為、手続等の制定等
原則11	選手、指導者等との間の紛争の迅速かつ適正な解決に取り組むべき	スポーツ仲裁利用の促進、通知
原則12	危機管理及び不祥事対応体制を構築すべき	危機管理体制の構築、マニュアルの策定、調査体制の構築、外部有識者の関与
原則13	地方組織等に対するガバナンスの確保、コンプライアンスの強化等に係る指導、助言及び支援を行うべき	地方組織への指導、助言、研修会の実施

# 1. NF向けコード概要③



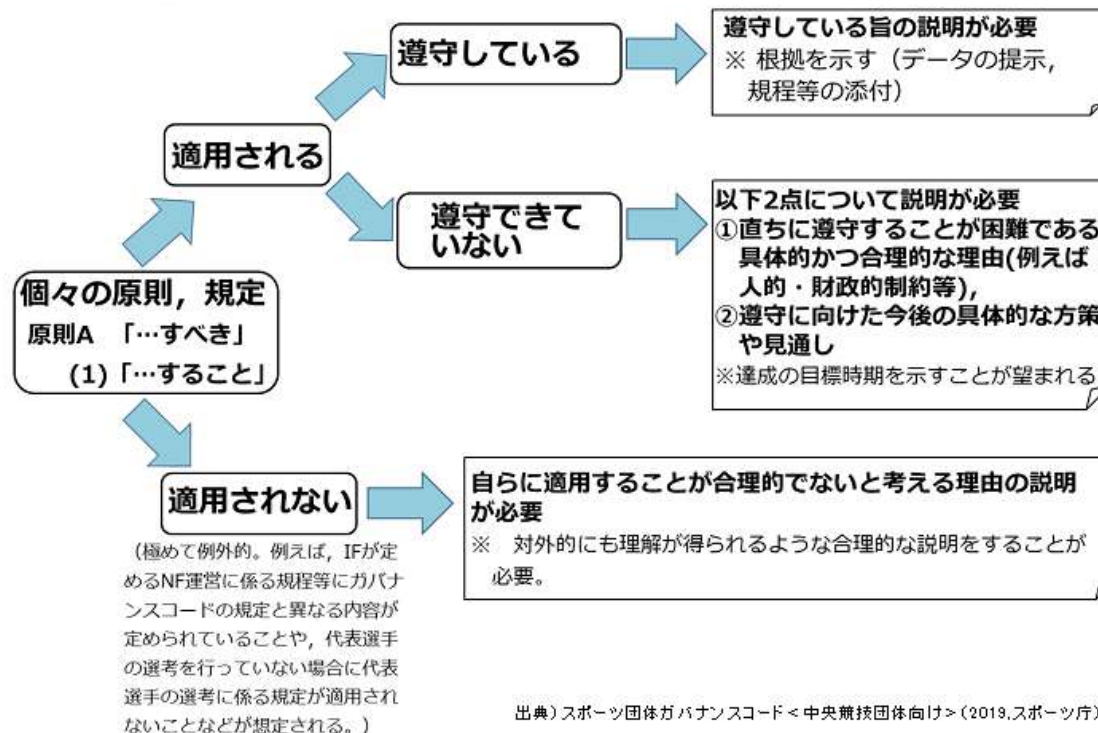
BASKETBALL CORPORATION CO.,LTD.

ALL FOR THE SPORTS BY BASKET

## ◆義務（NF向コードの対象団体の場合）

- NF統括団体（JSPO + JOC + JPSA）による、4年毎の適合性審査の実施（統括団体は、後日審査結果を一般に公表）
- JSPOに正加盟するNF、都道府県体育・スポーツ協会、関係スポーツ団体は、適合性審査とば別に、適合状況について、年1回の自己説明及び公表の実施（JSPO加盟団体規程、指定の様式にて各競技団体のHPに掲載）

<図：自己説明の在り方について>



出典)スポーツ団体ガバナンスコード<中央競技団体向け>(2019,スポーツ庁)



# 1. NF向けコード概要④



BASKETBALL CORPORATION CO., LTD.  
ALL FOR THE SPORTS OF JAPAN

## ◆ 適合性審査

- 適合性審査は右図の要領にて実施

## ◆ 違反時

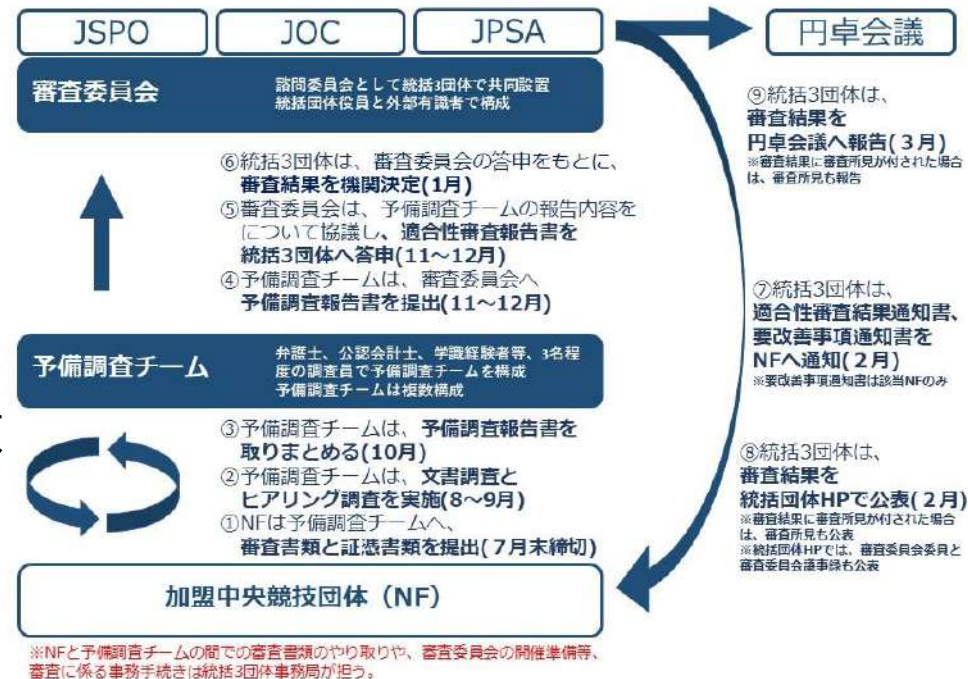
### 「競技力向上事業助成金」交付（JSC）

- 自己説明及び公表（毎年）状況が不適切：減額（10%）
- 適合性審査（4年毎）結果に要改善事項があり、且つ翌年までに改善せず：減額（10～20%）
- 同審査結果が不適合：申請不可

※不祥事発生（都度）：減額

※その他助成金（スポーツ振興くじ助成、スポーツ振興基金助成についても減額の可能性あり）

スポーツ団体ガバナンスコード適合性審査 スキーム図



<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ055619880U0A210C2000000>

強化費最大20%減を検討 スポーツ庁運営指針違反で（日本経済新聞 2020年2月14日）

## 2. JBA・BLG・BMK・BCPの対応



BASKETBALL CORPORATION CO., LTD.

ALL FOR THE SPORTS OF JAPAN

◆中央団体（JBA） ⇒ 一部機能が別法人（BCP・BMK）にある

- **JBA**は「NF向コード」適用
- **BLG**は「一般団体向コード」対象。但し、スポーツ振興くじ（toto）の対象競技となることを踏まえ、将来的には高いレベルのガバナンス確保が求められると自ら判断して「NF向コード適用」することも要検討

- **BMK**の事業は「スポーツの振興のための事業を行うことを主たる目的とする団体」に該当 ⇒ **ガバナンスコードの対象団体**
- **BCP**の事業自体は「スポーツの振興のための事業」には当たらないが、**間接的に関与**

- ↓
- **ガバナンスコードを遵守**し、最終的にはJBAと同様の「NF向コード」の適用が望ましい（但し自己説明と公表は不要）

NF向

**JBA**

（公益財団）

日本国内におけるバスケットボール競技界を代表する統轄団体

一般向

⇒NF向？（toto対象）

**BLG**

（公益社団）

日本国内における5人制男子トップリーグ運営

**BMK**

（株式会社）

広報・マーケティング機能

**BCP**

（株式会社）

アドミニストレーション機能

JBA・BLGの広報・マーケティング機能はBMKに、アドミニストレーション（総務・人事・経理）機能はBCPに集約していることから、中央団体の機能が別法人にある

### 3. JBAの今後の対応



BASKETBALL  
CORPORATION CO., LTD.  
ALL FOR THE SPORTS OF JAPAN

#### ◆2021年2月末に自己説明公表

<http://www.japanbasketball.jp/jba/sgc/>

#### ◆適合性審査（JBA）：令和3年度（2021年4月～2022年3月）

2021/7 審査書類提出 → 2022/2 適合性審査の結果が通知される

#### ◆今後取り組む主な具体的事項

- ・アスリート委員会の設置（目標時期：2021年9月）
- ・コンプライアンス委員会設置の要否確定（目標時期：2021年9月）
- ・利益相反規程の策定（目標時期：2021年7月）
- ・危機管理マニュアルの策定（目標時期：2021年7月）
- ・その他

女性役員の登用について

（長期的観点（10年程度）での女性理事割合目標（40%以上）に向けて計画）

暴力暴言相談窓口の設置を検討中

# 暴力・暴言等相談窓口（仮称）の設置に向けて

## ★目的



- ①する楽しさ、関わる喜びに満ちあふれた、  
**「選ばれるスポーツ」となる。**
- ②我々の大切な理念である**「バスケットボールで日本を元気にする」**ために、バスケット界およびスポーツ界からの暴力・暴言等根絶に取り組む。
- ③スポーツ団体向けガバナンスコード対応

## ★現状分析

- ①JBAにおける相談件数 2019年度実績 **68件(うちJBA裁定 5件)**
- ②日本スポーツ協会(JSPO)への相談件数が全競技中最多(断然トップ)。  
**アンダーカテゴリー層(特にU12カテゴリー)において顕著。**  
⇒バスケットをやめてしまう、進学時にバスケットを選択しないことにつながる可能性が高く、早期に是正する必要がある。  
⇒暴力・暴言等を受けた子どもが将来指導者になった時、再現の可能性はある。
- ③高体連における体罰認定件数は全競技中上位2番目(僅差)。
- ④競技人口の多い統括団体の中で未設置はJBAのみ。  
⇒相談窓口の設置を強く求められている(ガバナンスコード、ヒューマン・ライツ・ウォッチ調査等)。

＜参考＞「数えきれないほど叩かれて」日本のスポーツにおける子どもの虐待  
ヒューマン・ライツ・ウォッチ調査

<https://www.hrw.org/ja/report/2020/07/20/375777>

JBA裁定委員会对応件数							
	対応件数	うちU12	うちU15	うちU18	うち一般	うちJBA裁定	備考
2018	43	21	3	10	9	5	2018.12.25インテグリティ委員会設立
2019	68	31	10	14	13	5	
2020	28	19	2	3	4	5	2021.3.15現在

★JBAにおいても約80%がアンダーカテゴリー層

## I. 設置時期

**2021年9月予定**

## II. 受付方法

JBAホームページ内に設置する相談入力フォームから受付。

## III. 体制

### ●独立性を担保した相談窓口の設置

窓口対応を弁護士に委託し、一次調査を行ったうえ裁定委員会に手続きを移管。

対象となる行為者の保有資格がC級コーチライセンス(=JSPO協同認定資格)以下の場合、都道府県協会の皆さまにお取次ぎさせていただきます(権限の委任)。

※ただし、当該者が都道府県協会役員である場合、また1年以上の資格停止等の重大な懲罰が見込まれる場合は、機関決定のうえJBAに移管していただきます。

### ●規程および運用基準の策定

現在、相談窓口設置の根拠となる規程および運用のルールづくりを策定中。



## 2021

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
予算策定	→							東京オリパラ	窓口設置			
規程策定		→										
理事会付議準備（全体方針説明）		→										
理事会付議準備（運用）			→									
PBA／各種連盟説明会・研修会						→						
弁護士委託契約諸準備				→								
問い合わせフォーム作成	→											

- 2021年は都道府県協会向け研修会（年2回）を実施予定。

## 2022～

- 2022年も都道府県協会向け研修会（年2回）を実施。  
対象は専務理事、裁定委員会委員長を想定
- 対応に関するサポート体制を充実させ、適正な手続きによる懲罰と対応の迅速化を図る。
- 懲罰の公表を行って今後の抑止に繋げるとともに、未然に防ぐ取り組みと懲罰を科した後の取り組みを並行して推進し、バスケット界での暴力・暴言等行為の根絶を目指す。

# 2021年度D-fund対応について

## (1) 中止が決定した事業について

先日、2021年度の内示額及び対象事業について通知いたしましたが、**コロナ禍においてD-fund対象事業が中止となった場合**については、以下の条件での振替（付替）・事業変更を認めます。

- ①振替・変更の手続は、8月末までとする。
- ②振替・変更金額は、中止となった事業の内示額を上限とする。
- ③振替・変更事業について、以下の基準とする。

### ＜振替（付替）の場合＞

- ・中止となった対象事業の同一中区分内での事業への振替。
- ・同一中区分内での振替ができないと判断される場合、他の中区分の事業への振替。

### ＜事業変更の場合＞

- ・2021年度D-fund申請し、内示額決定時に対象外となった事業を対象とする。ただし、再度申請を行い、JBAにて対象事業の要件等を再審査し、決定する。

- ④振替・変更の際し、以下の書類を提出すること。
  - ・別途JBAより送付する管理表に記入し、提出すること
  - ・変更する場合、事業の収支予算書（指定様式）および実施要項の提出
  - ・コロナ禍における事業の中止決定に伴う通知書等

## (2) 内示額決定時に対象外となった事業について

1月21日付の文書に記載の通り、今年度は重点促進事業を優先的に、次に審判派遣事業や前年度交付対象事業等の順で対象事業としました。

D-fundの対象とならなかった事業については、JBAで実施の可否を判断しているものではありません。都道府県協会内で予算立てして実施いただきますようお願いいたします。

## (1) 交付金申請上限額について

「D-fund申請／報告書類 記入方法」に記載していた内容を、以下2点要項に加筆。

【該当箇所①】要項P.10 7.交付金の申請・決定・確定の流れ

(7)事業の実績報告書（ファンドA） ③その他

【内容】『●交付金申請上限額は、実績で再計算されます。（予算計画時の上限額で固定されるわけではありません。実績が優先されます。）』と追記。

【該当箇所②】要項P.13 9.交付対象事業/交付対象経費について

【内容】『(注) 交付金申請上限額よりも対象経費の合計額が下回った場合、対象経費の合計額が交付申請上限額となります。』と追記。

## (2) 訂正印について

【該当箇所】要項P.18 10.申請にあたっての諸注意事項 3.不備となる証拠書類

【内容】『「住所欄」のみの修正は訂正印不要です。また下記のいずれかの訂正印（訂正サイン）がある場合は修正を認めます。』に修正。

## (3) 直筆サインでの対応について

【該当箇所】要項P.19 10.申請にあたっての諸注意事項 その他

【内容】旅費・謝金に係る受領印および訂正印について、印鑑は任意とし、受領者・訂正者それぞれの直筆サインのみでの対応も可とします。受領のサインについては、氏名の記名とは別に受領サイン欄を設けた上で直筆のサインをもらってください。

## (4) 看板や垂れ幕について

【該当箇所】別紙①ファンドA交付金 対象経費基準 対象外経費（会議費、消耗品費）

【内容】会議や大会等のタイトルや各種案内に関する看板、垂れ幕等は対象外とする。

## (5) MCの謝金について

【該当箇所】別紙①ファンドA交付金 対象経費基準 対象経費（諸謝金）

【内容】MCの謝金は外部専門家と同等の30,000円を上限とする。

現在、事業申請や報告書の提出のツールとして使用しているD-fund専用サイトが以前のGoogleサイトで構築されているため、新しいGoogleサイトに移行する必要があります。新しいGoogleサイトでは、掲示板やファイルキャビネット等のメインで使用している機能が使用できなくなるため、他社サイトへの切り替えを検討しております。

今後のスケジュールとしましては、6月を目途に新システムへ切り替える予定です。詳細につきましては、追ってご連絡いたしますが、2021年度の報告書につきましては、新システムに移行後にご提出いただきますよう、お願い申し上げます。

# その他

# ブロック競技会 既存競技会の運営委託／共催について



# 【依頼事項③】既存競技会の運営委託／共催

## ◆今後（2021年度～）の検討方針案 ※各カテゴリー部会との調整を踏まえ、2021年3月末までに定める。

カテゴリー	対象競技会	助成内容	主催	共催	主管
U18	ブロック高等学校バスケットボール選手権大会 (U18選手権)	<p>&lt;2021年度～&gt; <b>1都道府県10万円×ブロック構成都道府県数×競技会</b> ※但し、助成対象・対象外項目を定める。</p> <p>■対象経費： ①開催地の都道府県外からの審判派遣の旅費・宿泊費(各県3名まで) ■対象外経費： ①プログラム製作費やバナー、看板製作費等 ②スタッフジャンパーや記念品、Tシャツ等の支給品の製作・購入費用 ③PCやTO用具等の備品にあたる物品の購入費用 ④保険料</p>	JBA 高体連	ブロック協会	PBA
	ブロック高等学校バスケットボール新人大会 (U18新人戦)				
U15	ブロック中学校体育大会バスケットボール競技 (全中ブロック予選)	<p>&lt;2021年度～&gt; <b>1都道府県12万円×ブロック構成都道府県数×競技会</b> ※但し、助成対象・対象外項目を定める。</p> <p>■対象経費： ①開催地の都道府県外からの審判派遣の旅費・宿泊費(各県2名まで) ②開催地の都道府県外からのマンツーマンコミッショナー派遣の旅費・宿泊費(各県2名まで) ③中体連専門委員長の派遣にかかる経費(旅費交通費・宿泊費) ④JBA名義の賞状の製作費</p>	JBA 中体連	ブロック協会	PBA
U12	ブロックミニバスケットボール大会 (U12ブロック大会)	<p>&lt;2021年度～&gt; <del>各ブロック50万円を上限に助成</del> <del>&lt;2022年度～&gt;</del> <b>1都道府県12万円×ブロック構成都道府県数×競技会</b> ※但し、助成対象・対象外項目を定める。</p> <p>■対象経費： ①開催地の都道府県外からの審判派遣の旅費・宿泊費(各県2名まで) ②開催地の都道府県外からのマンツーマンコミッショナー派遣の旅費・宿泊費(各県2名まで) ■対象外経費： ①プログラム製作費やバナー、看板製作費等 ②スタッフジャンパーや記念品、Tシャツ等の支給品の製作・購入費用 ③PCやTO用具等の備品にあたる物品の購入費用 ④保険料</p>	JBA	ブロック協会	PBA

※北海道協会事業は都道府県単位として扱うため、北海道ブロックを除く。

※各競技会にて助成金額を制定しているが、毎時、各競技会にて、収支計画を策定し、最終的な助成金額はブロック協会にて定める。

※各ブロック協会は、助成金総額(1都道府県44万円×ブロック構成都道府県数)で各競技会の助成を行うものとし、助成金の返還は行わない。

※各競技会の収支報告書(全収入・支出が入ったもの)は、事業終了後1か月以内にJBAまで提出すること。

## ■ 現行のブロック協会への補助

【ブロック協会 振興費】 1都道府県 25,000円 × ブロック構成都道府県数

## ■ JBAブロック事業の委譲に伴うブロック協会への補助 <予定案>

※各カテゴリー一部会との調整を踏まえ、2021年3月末までに定める。

【ブロック協会 運営補助費】 1都道府県 580,000円 × ブロック構成都道府県数

- ① 既存競技会 運営補助費 : 1都道府県 440,000円 × ブロック構成都道府県数
- ・ U18(選手権・新人戦) 1都道府県10万円×2大会
  - ・ U15(中体連) 1都道府県12万円×1大会
  - ・ U12(三二) 1都道府県12万円×1大会
- ② 既存競技会 会議費 : 1都道府県 60,000円 × ブロック構成都道府県数
- ・ U18(選手権・新人戦) 1都道府県2万円 (1万円×年2回)
  - ・ U15(中体連) 1都道府県2万円 (1万円×年2回)
  - ・ U12(三二) 1都道府県2万円 (1万円×年2回)
- ③ U18リーグ会議費 : 1都道府県 80,000円 × ブロック構成都道府県数
- ・ 1都道府県2万円×年4回  
(参加予定者：PBA専務理事+U18担当者1名)

※その他のJBA直轄事業(JBA U12/U15/U18カテゴリー一部会 ブロック別連絡会議)はJBA精算とする。

# 2021年度 会議予定

# 2021年度 会議予定

## 2021年度7-6月期JBA主要会議スケジュール(案)

2021/3/21現在

日時				会議名	場所	備考	2021年度都道府県協会に関連する内容
2021年	7月15日	木	14:00-16:00	理事会/幹部会	未定		<p>&lt;定時・臨時評議員会&gt; ・2021年6月27日(日)13:30-15:30</p> <p>&lt;都道府県連絡会&gt;開催予定/議題(案) ●第1回:2021年5月~6月 ・5月15日(土)関東 ・5月16日(日)東海 ・5月22日(土)北信越 ・5月23日(日)東北 ・5月29日(土)四国 ・5月30日(日)近畿 ・6月5日(土)九州 ・6月6日(日)中国 ※北海道は平日に実施 第1部:2022年度以降D-fund方針 第2部:U18ブロックリーグ準備説明</p> <p>●第2回:2021年10月中旬~11月中旬</p>
	7月17日	土	13:30-18:00	全国専務理事連絡会	未定	勉強会(ガバンスコード)を兼ねる	
	8月12日	木	14:00-16:00	理事会/幹部会	未定		
	9月9日	木	14:00-16:00	理事会/幹部会	未定		
	9月26日	日	13:30-15:30	定時評議員会	未定	役員改選 直後に臨時理事会開催	
	10月14日	木	14:00-16:00	理事会/幹部会	未定		
	11月18日	木	14:00-16:00	理事会/幹部会	未定		
	12月15日	水	14:00-16:00	理事会/幹部会	未定		
2022年	1月8日	土	13:30-15:30	全国専務理事連絡会	未定		
	2月9日	水	14:00-16:00	理事会/幹部会	未定		
	3月10日	木	14:00-16:00	理事会/幹部会	未定		
	4月14日	木	14:00-16:00	理事会/幹部会	未定		
	5月12日	木	14:00-16:00	理事会/幹部会	未定		
	6月9日	木	14:00-16:00	理事会/幹部会	未定		
	6月26日	日	13:30-15:00	臨時評議員会	未定		